

# 一一 日中諸案件交渉

## 1 一般問題

30 昭和9年2月2日 在中国有吉公使より  
廣田外務大臣宛(電報)

水先案内権回収を意図した中国側による水先章程の一方的改廃は通商条約違反につき抗議

方意見具申

付 記 昭和八年十二月六日付在上海石射(猪太郎)總領事より広田外務大臣宛公信機密第一四五三号

中國側による水先章程の一方的改廃について

上海 2月2日後発

本省 2月2日後着

第六八號

上海發閣下宛電報第三四號ニ關シ

本件支那側ノ意向ハ水先権ノ回収ニアル可ク我方權益ノ擁護上至大ノ關係アルニ鑑ミ此ノ際我方トシテハ主要關係國

タル英、米ト聯絡ヲ保チツツ率先シテ南京政府ニ抗議スルコト致度右抗議ノ理由ハ支那側ハ當時領事團ノ抗議ニ對シ一八六八年ノ水先章程ハ總理衙門ノ命令ニ依リ公布セラレタルモノニシテ何等取極ノ性質ナク之ヲ改廃スルハ國民政府ノ自由ナリト主張シ居ル處(一月九日附石射總領事發閣下宛機密第二四號參照)元來右章程ハ總理衙門ト英、米、佛、獨、露各國公使トノ合意ニ依リ制定セラレタルモノナルノミナラス(右ニ付當地英國領事館ニ就キ内密聞込ノ點別ニ電報ス)支那ト各國トノ通商條約ニハ何レモ水先案内ノ決定方及水先料金ノ決定等ハ各國ノ同意ヲ要スル旨ヲ定メ居ルモノナレハ(英支第三十五條及第七條佛支第十五條伊支第三十四條日支第十六條及第三條第二項等參照)支那側ニ於テ本件章程ヲ一方的ニ改廃セントスルハ明カニ條約違反ノ措置ナリトノ趣旨トシ近日本使赴寧ノ節汪精衛邊ニ對シ如上ノ諸點ヲ指摘シテ支那側ノ反省ヲ促シ場合ニ依リテハ公文ヲ提出シ度キ處右ニ關スル貴見何分ノ儀御回電ア

リ度シ

南京、北平、天津、漢口へ轉電シ上海へ轉報セリ

(付 記)

(接受日不明)

機密第一四五三號

昭和八年十二月六日

在上海總領事 石射 猪太郎

外務大臣 廣田 弘毅殿

國民政府ノ水先管理権回収問題ニ關スル件

上海聯合商業會議所ノ「シッピング、サブ、コンミッティ」ニ加ハリ居ル當地郵船支店長ヨリ聯合商議ニ於テハ今回「コースト、インスペクター」ニシテ上海「パイロツティジボード」議長タル「ヒルマン」ヨリ別紙<sup>(音達)</sup>書面寫ノ如ク總稅務司ノ命令ニ依ル趣ヲ以テ支那政府ニ於テハ沿江沿海ノ總テノ水先人協會ヲ政府ノ管轄ニ歸セシメ新ニ組織スヘキ

水先機関ヲシテ一八六八年所訂ノ支那水先章程ニ依ル水先

機關二代ラシムルコトニ決シタルカ新ニ制定サレタル引水管理暫行章程第二條ニ依レハ上海ニ於ケル水先事務ハ財政

部代表二名、參謀本部、海軍部、交通部(以上ハ代表選任濟)

市商會及外國人聯合商議各一名ノ代表ニ依リ組織セラルヘキ引水管理委員會ニ依リ管轄スルコトトナリ市商會ニ對シテハ代表推任方申入レアルヲ以テ聯合商議ヨリハ現「パイロツティジボード」代表「コツクス」ヲ同代表ニ推任スルヤ否ヤ若シ然ラスハ代表者ヲ速ニ通報アリタク尙新引水管理委員會ハ上海ニ於ケル各水先團體即チ淞漢引水公會、上海領江公司、吳淞漢口領港公司、日本人揚子江水先協會ヲ管轄スルコトトナルヘキ旨(四十六條ヨリ成ル引水管理暫行章程寫ヲ添付ス)<sup>(音達)</sup>ノ申出ニ接シタルヲ以テ十二月四日「シッピング、サブ、コンミッティ」ヲ開催討議ノ結果本件ハ一先ツ上海領事團へ移牒スルコトナリタル旨内報アリタリ就テハ本件ハ追テ首席領事ヨリ回章シ越スコトト思ハル處新章程ニ依レハ水先案内人ハ今後支那人ヨリ採用スルコトトナリ居ル如キ到底承認シ難キモノト認メラルモノ右不取敢報告申進ス

本信寫送付先 在華公使 北平

天津 芝罘 漢口 九江 蕪湖 南京  
福州 廈門 廣東

31 昭和9年2月9日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

朱家驛交通部長より日中間無線連絡および海  
底電線問題の解決方申出について

南京 2月9日前發  
本省 2月9日前着

第九九號

①日本官先方ノ希望モアリ朱鶴翔<sup>(編送)</sup>ヲ往訪シタル處朱ヨリ

貴官ハ今回着任前日本ニ歸ラレタル由ナルカ日支關係ニ付  
御歸朝中得タル感想如何ト切出シ來レルニ依り日本ニ於テ  
ハ官民共ニ支那側ニテソロソロ誠意ヲ披瀝シ大局上ヨリ日  
支關係ノ好轉ヲ具体化セシメテハ如何トノ觀測ニ一致シ居  
ル旨ヲ答ヘ率直ニ交通部ノ如キ事業關係當局者カ大ニ猛省  
奮發ノ要アル所以ヲ力説シタル處朱ハ最近ノ眞茹無電台ニ  
依ル英支直接通信ノ件ヲ話シ出シ先日モ上海ニテ有吉公使  
ニモ一寸切出シタル譯ナルカ日支無電聯絡問題若ハ海底電  
線問題ノ如キヲ解決スルニ付テハ日支間ノ重大懸案解決ヲ  
俟ツノ必要モ無シト思考セラル處此ノ點ニ關シ今回東京  
ニテ何等特別ノ印象アリシヤト尋ネタルニ依リ特別ノ話合

等勿論無カリシモ私見ニ依レハ元來無線電信聯絡ノ問題ト  
海底電線問題トハ全然別個ノ問題ニテ兩者ヲ關聯セシメテ  
考慮スルヲ得サルカ爾餘ノ諸外國トハ概不無線聯絡ヲ實現  
シ而シテ最モ關係深キ日本トノ間ニ今尙之ヲ缺クハ不自然  
至極ナレハ速ニ茲ニ想ヲ致サルルコト肝要ナリト應酬シタ  
ルニ朱ハ通信界ハ漸次無電獨歩ノ傾向ヲ示スモ空電ニ依ル  
故障等ニ備フル爲海底電線モ尙重要性ヲ失ハサル今日日支  
間ニ於テハ兩者ヲ一併考慮シ度シト述ヘ居タリ

二、次テ朱ヨリ之ヲ機會トシテ種々日支間ノ聯絡ヲ計ル様ニ  
互ニ努力致度シト云ヘルヲ捕ヘ本官歸朝ノ際ノ打合及支宛  
貴電第二三號御訓令ノ次第モ有リ本官ヨリ無電ニ依ル日支  
聯絡カ完成シ居ラサルノミナラス航空聯絡ノ問題ニ付テモ  
日本ノミ取殘サレ居ル恰好ナルカ日支間ノ聯絡ヲ密ニスル  
事ハ兩國何レニ取りテモ利益鮮カラサル可ク兩國間大局上  
ノ空氣好轉ニ甚大ナル效果有ル可キニ依リ本問題ニ付テモ  
考慮セラレ居ル次第ナリヤト尋ネタルニ朱ハ實ハ此ノ問題  
ハ自分モ充分考慮シ居リ支那側トシテハ昭和六年當時ノ基  
本協定案及借款契約案ニ關シ少クモ協定及契約ハ總テ相互  
平等ヲ基礎トシテ締結セラルベキ事又借款額ハ日支爲替相

32 昭和9年2月13日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

日中關係好轉に資するような両國間諸懸案の  
解決交渉が中國側提議により開始されるとの  
風説ならびに新聞記事について

上海 2月13日後發  
本省 2月13日後着

第八二號(極秘扱)

三、朱トノ會談ハ今ノ處探リノ程度ニ過キサルモ之ヲ切掛ニ  
機會有ル毎ニ促進ニ努力致度キ所存ナルカ本件ハ當分絶對<sup>○</sup>  
極<sup>○</sup>秘ニ附セラレタシ(八日「ホーリマン」ハ眞茹無電開通ヲ  
得意氣ニ吹聴シタル上本官ニ對シ偶然ニモ日本側ヨリ支那  
ニ無電聯絡開始ヲ「アプロウチ」セスマト借問シ居タリ)  
支、北平、天津、滿<sup>ニ</sup>ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

編注 「朱鶴翔」は「朱家驛」の誤りである旨訂正されてい  
る。

十一日時事特派員赤星ハ館員ニ對シ「小林德(元南京電通特  
派員現在天津滿洲國情報囑託)」發上海日報島津(小林ノ義  
弟)宛書翰ニ依レハ二月六日支那側ヨリ公使館側ニ對シ日  
支關係ノ全面的好轉ヲ促進シ得ルカ如キ種類ノ日支懸案ノ  
解決交渉開始方提議シ來レル趣ナルカ如何<sup>(ニ次カ)</sup>カトノ質問アリ  
タルヲ以テ館員ヨリ「日支間空氣更新ノ兆アルハ事實ナル  
モ懸案ノ具體的解決ニ乘出シタリトノ說ハ事實無根ナリ」  
ト答ヘ置キタル處(其ノ節赤星ハ二月四日大毎掲載「日支直  
接交渉近ク開始サレン」)トノ記事ヲ指摘シ其ノ出所ヲ尋ネ  
タルニ付館員ハ右ハ單ナル流說ニ過キスト述ヘ置キタル趣  
ナリ)十二日上海日報夕刊ハ通商條約改訂不可侵條約締結

## 二 日中諸案件交渉

問題ニ關スル國民政府ト英、米、露等トノ交渉開始說ニ關聯シ「最近支那側ヨリ日本當局ニ對シ懸案ノ交渉開始ヲ申出タ事實カアルト云ハレテ居ル其ノ内容ハ極秘ニ附セラレ窺知スルヲ得ナイカ海底電信及双橋無電問題交渉ノ再開テ無イカト見ラル」トノ記事ヲ掲(載)セリ右ニ懸案ノ指摘ハ最近當地新聞ヲ賑ハシタル眞茹無電英文直接通信開始問題ヨリ想像シタルモノト認メラル處時事特電モ右上海日報ト同一ノ「ソウス」及想像ニ基クモノト認メラル御参考迄南京へ轉電セリ

33 昭和9年2月17日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

日中間に懸案解決交渉開始との記事掲載は中國側に反対論抬頭の懸念があるため当分差控えるよう

上海駐在の本邦報道各社首脳に説示について

上 海 2月17日後発  
本 省 2月17日後着

<sup>(1)</sup>第九八號(極秘)  
往電第八九號ニ關シ

得タル趣ナリ

尙其節記者一同ヨリ在本邦新聞通信本社ノ全部ニ於テ徹底的ニ右ノ希望ヲ實行スルニアラスンハ出先トシテ之ヲ實行

シ難シトノ申出アリタルニ對シ堀内ニ於テ右様取計方盡力スヘシト申聞ケ置キタル趣ナリ

本件實行ノ必要ナルコトハ既ニ充分御氣付ノ次第ナル處前記記者側ノ申出ハ至極尤ノ儀ト存セラルニ付本邦新聞通

信本社ニ對シ右ノ希望充分徹底セシムル様御取計ノ上何分ノ儀御示アリ(タシ)

本件新聞通信ノ統制ニ付關係官廳ノ間ニ充分聯絡ヲ取ル必要アリ當方ニテハ陸海軍側ト充分聯絡ヲ取り居ル次第ナレハ中央ニ於テモ同様御配(慮)ヲ得度シ

上海へ轉報セリ

34 昭和9年2月18日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中國側国内事情に鑑み日本側より日中間無線

連絡協定交渉開始方申出ありたき旨中國交通  
部側要請について

當地邦人記者ハ右往電ノ事情等ニ刺戟セラレ兩國間ニ懸案解決ノ外各種ノ問題ニ付交渉開始セラルモノト想像ヲ逞シウシ十五日朝日記者ハ館員ニ對シ航空聯絡ニ關スル交渉ヲ問題トスルカ如キ質問ヲ爲シタル趣(館員ヨリ全然否定シ此ノ種問題ノ報道ヲ強ク差止メ置キタル由)ニシテ此ノ儘放置スル時ハ近日本使赴寧ノ際其他ノ機會ヲ捉へ如何ナル報道ヲ爲ス者有ルヤモ計リ難キ模様ナルヲ以テ十六日掘内ヲシテ當地邦人新聞通信各社ノ主脳者ヲ集メ我方トシテハ種々ノ問題ニ付支那側ト話合ヲ爲ス必要アリ兩國關係ノ緩和スルニ從ヒ今後ハ從來ヨリモ盛ニ之カ準備工作ヲ爲ス運ヒトナルヘキ處

此ノ際我方新聞通信等ニ於テ例ヘハ關稅原產國標記債務整理賠償金支拂海底線無電航空等ノ諸問題即チ其解決ニ依リ兩國關係ノ改善カ立證セラルカ如キ問題ニ付兩國間ニ話合始マルトカ又ハ進行中ナリトノ記事ヲ掲載スルカ如キコト有ラハ南京政府ノ部内及部外(ニ對)スル複雜ナル關係及立場等ニ鑑ミ忽チ反対論ヲ擡頭セシメ話合ノ成功ヲ期シ難キ事情ニ在ルヲ以テ追テ何分ノ沙汰アル迄當分ノ間前(記)ノ如キ報道ヲ爲ササル様說得セシメ(脱?)上全部ノ同意ヲ

南 京 2月18日前發  
本 省 2月18日前着

<sup>(1)</sup>第一二二號(至急、極秘級)  
往電第九九號ニ關シ

本十七日交通部參事郭心崧本官ヲ來訪シ本日ハ朱部長ノ代理トシテ參上セリト前提シタル後

「日支無電聯絡ニ付貴官トノ御話ニ基キ汪院長トモ相談シタル處結局本件ハ兩國相互ノ利益トナルコトニモアリ日本支友好關係恢復ノ好個ノ題材ナレハ早急之ヲ實現スルコトニ意見ノ一致ヲ見タルカ本問題ハ英支間聯絡ノ例ニモ倣ヒ行政院會議其ノ他ニ懸ケ討議スルノ要アル處支那側ニ於テハ日支關係ハ今尙機微ナルモノアルニモ顧ミ此ノ際日本側ヨリ正式ニ交渉開始方申出テラルコト手續上肝要ナリト思考シ居ル次第ナリト申述ヘタルニ依リ本官ヨリ成程支那内部ノ實情等ニ顧ミ日本側ヨリ申出ツルコトトスルハ已ムヲ得ストスルモ本件交渉カ事前ニ外部ニ漏洩セサル様特ニ注意ノ要アルニ付當方ヨリ公文等ヲ以テ申入ルルコトハ得策ナラサルヘク何レ請訓ノ上御返事申上クヘキモ私見トシテハ當方ヨリ交通部長ニ宛テ覺書

位ヲ送付ノ上開談スルコト如何カトモ思考セラルト應酬シタル處郭ハ右ニテ結構ナルヘシ要ハ行政院會議等ニ正式ニ持出シ得ヘキ基礎ヲ得度キ次第ナレハ敢テ公文ノ形式ヲ要スル次第ニハアラサルヘシト述ヘタル後

本件交渉カ極メテ機微ナル關係ヲ有スルコト御説ノ通ニテ實ハ目下伊國トノ無線聯絡交渉モ進行中ナルカ當方ハ之スラ嚴秘ニ付シ居リ況ヤ日支間聯絡ハ特ニ秘密ヲ要スル次第ナルニ付テハ右貴方ニ於テモ充分御含ミ置アリタシト述ヘ

三、又航空聯絡ニ付テモ慎重考慮中ナルカ支那側ハ無線航空兩問題ノ交渉ヲ同時ニ開始スルハ事ヲ成就セシムル所以

ニ非サルヘク先ツ無線ヨリ始メ之カ結果ヲ見タル上航空問題ニ移ルコト然ルヘシトノ意見ニ傾キ居ル旨ヲ述ヘタルニ付本官ヨリ右ハ一應御尤ナルモ兩問題共前同様ノ趣旨ニ出ツルモノ故航空問題モ最近ノ機會ニ開談方心構へ置キアリタシト念ヲ押シ引取ラシメタリ

三、然ルニ後刻郭ヨリ電話ヲ以テ無線聯絡問題ハ技術問題ニモアリ之カ開談ニ付支那側ハ日本側無線會社ヨリ電政司宛書面ノ形式ニ依ルヲ尤モ好都合ト思考スル旨申越來レ

リ

四、本問題ニ關スル朱家驛ノ應酬振ハ汪院長カ本官ニ漏シタル行政院決議(往電第一一號)ヲ秘シ如何ニモ日本側ヨリ開談シ來リタル体裁ヲ繕フコトニ苦心シ居ルコト明カナルモ閣下發公使宛電報第二三號ノ御趣旨ニモ合シ居ルニ付此ノ機會ヲ逸セサルコト得策ト存セラルニ付テハ右開談形式ニ關スル先方希望ニ對スル當方應酬振至急御回訓アリタシ

支、北平、滿ヘ轉電セリ

(欄外記入)

無電會社ヨリノ申入レハ可、政府ヨリスルハ三井無線ノ關係モアリ不可

35 昭和9年2月19日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

日中間無線連絡交渉においては先ず両国政府間にて基本的取極および話合を了すべき旨須磨總領事へ指示について

36 昭和9年2月19日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日中懸案解決交渉に関する中國紙憶測報道を嚴重に取締るよう外交部に注意喚起について

南 京 2月19日後発  
本 省 2月20日前着

第一二七號  
支發閣下宛電報第九八號ニ關シ

往電第一二六號支那新聞ノ報道モアリ本十九日本官沈亞洲司長ト會談ノ際右新聞記事切抜ヲ示シ日支關係ノ緩和ニ伴ヒ兩國間ノ往來モ次第頻繁ノ度ヲ加フ可キハ當然ナルカ支那側ニ於テハ當方トノ接觸上種々機微ナル問題ヲ考慮セサル可カラサルニモ顧ミ我方ニ於テハ日支交渉ニ付想像ヲ逞フル通信ノ取締ニ付折角努力中ナルカ肝心ノ貴方ニテ取締ヲ缺クコトトナラハ右日本側ノ努力モ全然無意味トナル譯ニテ此ノ點充分御注意相成度シト述ヘ注意ヲ喚起シタル處沈ハ該新聞記事ハ初メテ承知スル次第ナルカ支那側トシテハ勿論此ノ種記事ノ取締ヲ痛感シ居レハ早速改メテ手配スヘシト恐縮シタル上唯今(脱?)有吉公使今回ノ來寧ニ

付如何ニ應酬致ス可キヤト尋不タルニ依リ公使ハ本官就任ノ機會ニモアリ汪院長ニ挨拶ヲ兼ネ上京セラルモノナル趣ヲ以テ應酬スル積リナリト答へ置キタリ  
尙當地日本人記者ニ對シテハ本官ヨリ十九日冒頭電報ノ趣旨ニ依リ然ルヘク説示シ置キタリ

支、北平、廣東、天津、青島、濟南、漢口、福州、香港ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

37 昭和9年2月20日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

昭和二年南京事件の賠償金支払い再開を沈覲  
鼎外交部亞州司長に申入れについて

南京 2月20日前發  
本省 2月20日後着

第一二九號

貴電第一四號後段ニ關シ  
本件ニ付テハ機會ヲ見テ孔祥熙及本官ト親交アル財政部總務司長許建庭<sup>(席)</sup>邊り共會談ノ心組ナルカ本十九日沈亞洲司長

第一一四號(極秘)

往電第一一三號末尾ニ關シ

汪兆銘ハ(二十一日)先般行政院會議ニ於テ朱交通部長ヨリ日支間ノ無線電信聯絡開始方ニ付提案アリ之カ實施ノコトニ極秘ニ決議ヲ經タルニ付若シ日本側ニ於テ贊成ナラハ之カ(實)現方ニ付商議ヲ開始シ度シト申出タルニ付本使ハ先般上海ニテ朱部長ヨリ同様ノ申出アリ右ハ至極結構ノコトニテ我方ニ於テハ之力實施ニ(綱註)ト答へ尙之カ(實施)ノ方法等ハ各關係當局ヲシテ研究セシムルコト度シ度ク貴方ニ於テモ早速必要ノ訓令ヲ主管當局ニ傳ヘラレ度シト述ヘタルニ汪ハ了承ノ旨答ヘタリ(尙右會談中同席ノ唐有壬ハ本件交渉開始ハ絶對極秘ニ取扱ハレタシト有野ニ繰返シ告ケタル由)

本件ニ關シテハ閣下發南京宛電報第一六號訓電ノ次第アル處開談ノ形式等ハ追テ須磨ヨリ朱ニ申入レシムルコトシリ本使ヨリ餘リ早手廻シニ此ノ種ノ相談ニ入ルコトハ不得策ナリト認メタルニ付態ト前顯程度ノ應酬ニ止メ置ケリ爲念

編注「(脱)」より「(實施)」に至る個所は、「異議無シト

答「尙之カ商議」と訂正されている。

38 昭和9年2月23日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)  
汪兆銘より行政院會議の決議に基づき日中間  
無線連絡交渉を開始した旨提議について

上海 2月23日後發  
本省 2月23日後着

第一四二號(至急、極秘)

貴電第一五號ニ關シ

39 昭和9年2月23日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)  
通信省電務局長より交通部電政司長宛直接申  
入れを行う形式により日中間無線連絡交渉を開始した旨具申

南京 2月23日後發  
本省 2月24日前着

第一四二號(至急、極秘)

貴電第一五號ニ關シ

日支無電會社側ヨリ開談セシムルトスルモ貴電第一六號(三)ノ如ク行々ハ遞信省ヲ協定當事者トスルノ外ナキ次第ナレハ交渉ノ途中ニテ當事者ヲ替フルコトナリ交渉決裂ヲ誘致セサル迄モ我方地步ヲ不利ナラシムヘキ惧アリ種々考慮ノ未出來得レハ遞信省ヨリ開談スルノ外途ナキ体ニテ此ノ先方ヲ說落スコト本件交渉ヲ圓滑ニ又我方ニ有利ニ展開セシムル所以ナルヘシトノ結論ニ達シ本官本二十三日郭參議ヲ往訪シ(朱部長ハ赴滬不在)遞信省官制第一條第二項ニ

依り日本無電會社ハ遞信省ニ依リ管理セラル旨ノ法規ヲ

モ引用ノ上種々事理ヲ盡シ要スルニ

(一)、本件ハ日本遞信省係局長例ヘハ電務局長ヨリ直接電政

司長ニ開談申入ヲ爲スコトトシ

(二)、本件交渉カ殊ニ支那側ニ取り絶對極秘裡ニ行ハルヘキ

必要アル處今直ニ日本ヨリ専門家ノ派遣ヲ求ムル時ハ自

然外部ニモ知レ渡ルヘキニ付本官ニ於テ便宜引續キ交渉

ヲ進ムルコト

ノ二點ニ付説得ニ努メタル處同參事ハ實ハ諸外國トノ例及面子ノ問題モアリ先日貴官ニ對シ無線會社ト開談シ度キ希望ヲ通シタル次第ナルカ御話ノ趣旨ハ充分了解致シタルニ付貴官ハ總領事ノ資格ニ非スシテ遞信省係局長ヨリノ正式受任者ノ形式ヲ以テ交渉ヲ進メラレ差支無シト答ヘタリ

就テハ本官ハ遞信省係局長ノ受任者トシテ貴電第一六號一、(1)ノ書面ヲ作成開談スルコト然ル可シト存セラル處右ニ御異存無キニ於テハ先方要求ノ形式ヲ満足セシムヘキ手續ニ付至急御電示相成度シ

支ニ轉電セリ

~~~~~

○○號ノ趣旨ヲ並ヘ立テタルニヨリ

三、本官ヨリ往電第九九號朱家驛ト會談ノ際ニモ海底電線問題ハ全然本件ヨリ切離サルヘキ旨強調シ置キタル點ヲ指摘シタル上海底電線問題ハ滿洲國トノ關係モアリ之ヲ持出スコトハ却テ支那側ニ取り得策ニアラサルヘキニ付素直ニ本件ノミヲ話合フコト然ルヘシト説示シ先方ノ無理押シヲ抑ヘントセリ

三、然ルニ兩人ハ交々前主張ヲ繰返シ更ニ之ニ對スル本官ノ强硬ナル反駁ニ遭フヤ稍々折レテ出ル様ノ素振リヲ見セ然ラハ上海長崎線陸揚運用計畫及川淡線又ハ少クトモ滿洲國云々ニ關聯セサル問題丈ニテモ話ヲ進メタシトテ執拗ニ申出タルニ付

四、(2)本官ハ多少色ヲ爲シテ曩ニ交通部長トノ話合ニ依リ無線聯絡商議トノミ諒解シ居タルモ貴方面子關係ヲ考慮シ種々ノ注文ヲ容レテ出來得ル限りノ便宜ヲ計ヒタルニモ拘ラス此ノ經緯ヲ全然無視シテ今斯ル申出ヲ爲スハ人ヲ「ペテン」ニ掛クルニ等シク物別レノ外無カルヘシト開キ直リタルニ先方ハ依然前言ヲ繰リ返ヘシタルニ付然ラ

ハ電政局長受任者トシテハ本官ハ此ノ話ヲ始ムル要無キ

40 昭和9年3月16日 在南京須磨總領事より

広田外務大臣宛(電報)

無線連絡問題と共に海底電線問題をも協議し

たいとの中國側の強い要請について

南京 3月16日後発

本省 3月17日後着

往電第一九一號ニ關シ

當方ヨリ話ヲ持掛クルハ本件開始ニ付焦慮シ居ルカノ如キ感ヲ與フル惧モアリ暫ク様子ヲ見送リ居タルカ本官上海出張不在中電政司長ヨリ面會方申入レ來レル事實モアリ適當ノ潮時ト思ヒ本十六日顏電政司長及尹第一科長ヲ往訪鼎坐會談セルカ要領左ノ通

一、先方ヨリ日支關係ノ未夕好轉セサル此ノ際兎モ角交通部カ日本側トノ話合ニ乘出し來レルハ一二部長ノ貴官ニ對スル友誼ニ依ルニ外ナラスト述ヘ恩ニ着セルノ態度ヲ示シタル上佐青線上海長崎線陸揚運用契約及淡水川石山線陸揚問題等ヲモ一併協議シ全面的ニ日支間ノ交通問題ヲ片付ケタシトテ客年八月八日附公使發閣下宛機密公第三

片付ケタシトテ客年八月八日附公使發閣下宛機密公第三

譯ナリト立上ラントセルニ

五、顏ハ周章氣味ニテ實ハ海底電線ノ件ハ電政局長受任者トシテノ貴官ニ申入居ルニ非ス外務省ニ取次方要請シ居ル次第ナリト急ニ態度ヲ變ヘテ誤魔化サントセルニ依リ然ラハ今迄ノ御話ハ御希望トシテ承リ交渉ハ無線問題ニ限ルコトニ諒解シ然ル可キヤト突込ミタルニ不承不精ノ体ニテ承服ノ意ヲ表シ居タリ

六、(3)依テ本官ヨリ無線ニ付昭和六年ノ協定成案ノ儘ニテ調印スル事然ルヘシト述ヘタル處先方ハ各條ノ大綱ハ大體其ノ儘ニテ可ナルモ辭句其他ニ付踏襲シ難キ點アレハ新二案ヲ設クル事ト致度シト答ヘタルニ付本官ヨリ一體右昭和六年ノ成案ハ獨支無線取極ニ慣ヒタルモノナルノミナラス佛支等最近ノ無線協定ヲモ參酌シテ出來上リタルモノト承知シ居リ又最近ノ英支契約等ハ右ト根本的ニ相違スルモノニ非サル由聞及ヒ居レハ大體之ニテ纏メテ然ルヘシト繰返シ力說セル處先方(脱?)然ラハ之ヲ根本案トシテ何レ來週當リ貴官ヲ往訪ノ上更ニ話ヲ進メ度シト答

ヘ居タリ

七、右會談ニ依リ大體御承知ノ通り支那側ハ無線問題ヲ恩ニ

着セ何カニ引懸ケテ交渉ヲ有利ニ展開セシムル一方場合ニ依リテハ話合ヲ遷延セシメントスル態度サヘ看取セラルニ付本官ヨリ適宜進行ヲ督促スヘキモ右豫メ御含置ヲ請フ

支ヘ轉電セリ

ヲ請フ

~~~~~

41 昭和9年4月10日 在天津栗原總領事より

広田外務大臣宛(電報)

満州國承認を意味する印刷物を一律輸入禁止

とする旨の大津海關告示について

天 津 4月10日後発  
本 省 4月10日後着

第九二號

本官發支宛電報

第六三號(至急)

當地海關ハ六日附第九七五號ヲ以テ政府ノ命ニ依リ爾今滿洲國國旗地圖及其ノ他ノ印刷物ニシテ滿洲國ノ字アルモノ或ハ滿洲國承認ノ意義ヲ含有スルモノ(英文ニ依レハ單ニ地圖及滿洲國承認ノ意義ヲ含メルカ如キ性質ノ印刷物トア

リテ國旗ヲ列擧セス)ハ一律其ノ輸入ヲ禁止スル旨告示セル處實際之カ適用如何ニ依リテハ日常日本等ヨリ來ル新聞其ノ他ノ印刷物等ニ關シ一方ナラス紛議ヲ惹起スル惧多分ニアルモノト認メラルニ付中央ニ對シ深甚ナル注意ヲ喚起セラル様然ヘク御取計相煩度シ爲念

大臣、北平、南京、漢口、廣東、青島、滿ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

42 昭和9年4月11日 在中國有吉公使より

広田外務大臣宛(電報)

満州國承認を意味する印刷物輸入禁止の海關告示は多大の紛議を醸すおそれがある旨唐有

壬に注意喚起について

上 海 4月11日後発  
本 省 4月11日後着

第二五六號

閣下宛廣東發第九九號廈門發第八四號福州發第一二六號各往電及天津發本使宛來電第六三號ニ關シ(滿洲國承認ヲ意味スル圖書輸入禁止ノ件)

十一日不取敢有野ヲシテ唐有壬ト會談ノ序ニ同人ニ對シ該告示ハ適用如何ニ依リテハ多大ノ紛議ヲ釀ス惧アル旨ヲ説明シ警告セシメタル處唐ハ自分ハ右ノ如キ命令ヲ承知シ居ラサルカ至急取調ヘラ爲シ一定ノ範圍ヲ定ムル等適當ノ措置ヲ講スヘシト約シタル趣ナリ

北平、天津、青島、南京、漢口、福州、廈門、廣東へ轉電シ上海へ轉報セリ

43 昭和9年4月17日 在中國有吉公使より

広田外務大臣宛(電報)

水先案内權の確保は軍事上および居留民保護上

必要であり中國側の水先章程改訂には日本側水先業の独立をも考慮に入れ強硬抗議方意見具申

上 海 4月17日後発  
本 省 4月17日後着

第二八六號

(<sup>1</sup>) 上海發閣下宛電報第一八五號ニ關シ(水先章程ノ件)  
本件ニ關シテハ曩ニ汪兆銘ト會談ノ際文那側ノ一方的利權回収手段ノ不當不法ナルコトヲ說示シ嚴重警告ヲ與ヘ置キ

タルコトハ往電第一一七號ヲ以テ報告ノ通ナル處其ノ後支那側ノ態度ヲ見ルニ上海發閣下宛累次電報ノ通り事實上舊制度ノ運行ヲ停止シ新章程ノ一方的實施ヲ計リ居リ何等其ノ態度ヲ變改スル模様ナキ有様ニテ他方英國側ニ於テハ支那側現存水先協會ノ利益ヲ保障シ上海其ノ他各港ニ於ケル外國船舶ノ出入港ニ不安ヲ與ヘサル保障ヲ與フル限り本件新章程ノ一方的實施ヲ默認スルモ可ナリトノ實利的姑息ナル方針ヲ持シ居リ貴電第三一號御訓令ノ次第ハアルモ到底我方ノ道連レト爲シ難カル可ク米國亦略々英國側ト同様ノ態度ニ出ツルモノト認メラル然ル所本件ハ啻ニ船舶業者乃至水先案内人ノミノ利害ノ問題ニアラス此ノ際支那側ノ遣口ヲ容認シ新章程ノ一方的實施ヲ默過センカ爾後ノ條約上ノ諸問題ニモ惡例ヲ殘ス事トナリ

其ノ影響甚大ナルヘク將又水先權ノ確保ハ邦人揚子江航行權ノ維持發展ト密接ノ關係アルノミナラス將來有事ノ場合軍事上及居留民保護上至大ノ關係アリ我方ノ立場ハ他關係國ノ夫レトハ全然異ルノ事實ニ鑑ミ我方トシテハ本件ニ關シ他關係國ノ執ルヘキ措置ト併行シ我方ノ立場ヲ強ク主張シテ抗議ヲ爲スコト肝要ナリト存ス就テハ北平發本使宛電

報第一三三號主席公使ノ回章ニ對シテハ差當リ外交團ヲシテ支那側ニ依ル本件章程ノ一方的改訂不承認主義ヲ明確ニ表示セシメタル上關係國側ニ於テハ支那側ノ要望ニ對シテハ之ヲ者慮スルニ吝ナラサルモ先ツ支那側ヨリ案ヲ具シ來ルヘキモノナリトノ趣旨ヲ申入レシムル様我方ノ意嚮ヲ通

(欄外記入) 張ハ支那側ニ於テ飢迄現在ノ態度ヲ緩和セサル場合我方トシテ相當ノ決意ヲ以テ之ヲ强行スル必要ニ迫ラル場合モアルベク此ノ際慎重ノ考慮ヲ要スル次第有之前記首席公使回章ニ對スル措置振ト共ニ併セテ何分ノ貴見御回電アリ度シ

告スルニ止メ(特ニ冒頭電報中ノ二ノハノ點ハ事實問題ト

北平　南京　天津　漢口　上海

交團ヨリ進ンテ「サヂエスト」スルニハ及ハサルヘク

(標外語)

管理下ニ置クコトハ將來ヲ考慮スルトキハ面白カラサル様

{

方本使ヨリ南京政府當局ニ對シ前回警告後支那側ニ於テ態

昭和九年四月十九日  
広田外務大臣宛(電報)

方ハ我方ノ絶對ニ容認シ難キ不法不當ナルコトヲ再說シ往

## 債務整理、南京事件賠償金支払い再開の各問

支那側ニ於テ飽迄新章程ノ實施ヲ爲サントスル場合我方ハ

南京 4月19日

定雇傭等全然我方ニ於テ之ヲ爲スヘキ決意ヲ有スルコトヲ

第三六六號

有吉公使ヨリ

本使十八日來寧同日午後汪兆銘ト會見セルカ要領左ノ通  
先ツ本使ヨリ近ク一時歸朝スヘキ旨ヲ述ヘ一應ノ挨拶ヲ述  
ヘタル處注ハ右ハ幸ヒノ機會ナルニ付種々申上ケ度キ事項  
アリ先ツ昨年末ノ懸案事項ニ付御話スヘシトテ  
一、原產國標記問題ハ前回ノ會談(二月二十一日)後御要求ニ  
依リ取調ヘタル處差當リ該規則實施ノ計畫無カリシコト  
判明シタルカ其ノ後更ニ研究ノ結果之カ實施ヲ當分延期  
スルコトトシ最近既ニ行政院會議ニテ議案ヲ決定セルニ  
付御安心アリ度シ

二變更セリ)更ニ引續キ別電ノ談ニ移レリ

行フコトニ目下修正案ノ作成ヲ急キツツアル處其ノ内容  
ハ貴公使ノ要求全部ヲ容レラル迄ニハ行カサルモ相當  
満足ヲ與ヘ得ル程度ノモノト信シ居レリ

在中国有吉公使より

昭和9年4月2日

原産国標記条例実施延期、関税率改訂、対日債務整理、南京事件賠償金支払い再開の各問題に関する孔祥熙との会談について

上海 4月21日後発  
本省 4月21日後着

## 第三一七號

南京發閣下宛電報第三六六號ニ關シ二十日來滬中ノ孔祥熙ト會談セルカ要領左ノ通

一、原產國標記關稅率問題及南京事件賠償金支拂方ニ關シ孔ハ汪兆銘ト略々同様ノ談話ヲナシ特ニ關稅率問題ニ付現在ノ稅率カ日本品ニ對シ殊更差別的趣旨ヲ以テ制定セラレタルモノニ非ストテ頻リニ辯解セルカ本使ヨリ我方調查ノ結果ニ依リ覺書ニ指摘セル不公平ノ點ヲ明示シ今回ノ修正ニ際シ特ニ注意セラレ度キ旨要請シタルニ孔ハ日本側送付越シノ説明書ハ夫々拜見セルニ付此ノ點ハ充分注意シ相互ノ利益ニナル様調整ヲ加フ可シト答ヘタルニ

付本使ハ具体的ノ點ニ付我方係員ヲシテ非公式ニ個々ノ稅率ニ付説明セシムルモ可ナリト述ヘタルニ孔ハ必要ノ節ハ御願スルコトアル可シト挨拶セリ

三、債務整理問題ニ付本使ヨリ冒頭往電汪ノ談話ヲ引用シ財政部ニ於ケル具体的準備ノ有無ニ付質問シタルニ孔ハ自分ハ財政部長就任以來外債ノミナラス内債ニ付テモ合セ

北平、南京、天津、青島、漢口、廣東ニ轉電シ上海へ轉報セリ

編注 別電第三一八号は第15文書。

46 昭和9年4月21日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

滿州國承認を意味する印刷物輸入禁止の海關告示は無制限に勵行せずとの汪兆銘回答について

上海 4月21日後発  
本省 4月21日後着

## 第三三四號

往電第二七六號及貴電第一〇五號ニ關シ(滿洲國關係印刷物輸入禁止ノ件)

十八日南京ニテ汪兆銘ト會見ノ際本使ハ右貴電御來示ノ御

趣旨ヲ敷衍説明シテ抗議シ特ニ該告示カ若シ勵行サルルニ於テハ各地ニ於テ續々物議ヲ生スル虞アル旨ヲ述ヘ警告ヲ

與ヘタル處汪ハ本告示ハ今更撤回スルコトハ出來サルモ其ノ趣旨ハ告示記載ノ物件ニシテ我國ニ有害ナリト認ムルモノノミニ對シ實施スルモノニテ無制限ニ勵行スル考ニ非スト答ヘタルニ付本使ハ然ラハ右範圍ノ限定方速ニ海關ニ訓令セラレ無用ノ紛糾ヲ釀ササル様手配セラレタシト申入レタルニ汪ハ何分ノ手配ヲ爲スヘキ旨約セリ

南京、北平、天津、青島、漢口、廣東、汕頭、福州、廈門、  
滿、奉天へ轉電シ上海へ轉報セリ

(欄外記入)  
四、公文ハ五月八日附ニテ交換済  
五、先方ハ本件發表ヲ極度ニ恐レ居ルモ貴電第七五號ノ次第モアリ本官ヨリ更ニ顏司長ニ對シ聯絡開始ノ便宜上ヨリスルモ貴電第六九號(三)位ノ趣旨ヲ發表スルコト然ルヘキ此說示ニ努メタル處先方ハ之ニ對シテスラ難色ヲ示シタ

テ何等カノ整理辦法ヲ立テント心掛ケ居ル所之カ前提トシテ先ツ政府ノ收入及支出ニ付全般的整理ヲ爲シ同時ニ各種建設費ノ振當テ等モ考へ總括的計數ヲ調ヘ上ケ之ヲ基礎トシテ更ニ債務整理ノ案ヲ作成シ度キ考ニテ準備的研究ヲ進メツツアル旨答ヘタルカ本使ハ債權者側ノ既往ニ於ケル忍耐ノ點等ヲ説明シ此ノ上トモ其ノ準備ヲ急キ速ニ整理ノ途ヲ講セラレ度キ旨督促シ置キタル上別電第31一8號(編註)ノ如ク他ノ話題ニ移レルカ要スルニ本問題ニ付財政部ニ於テ最近特別ニ新タル準備ニ着手シ居ルカ如キ形跡無キヤノ印象ヲ得タリ

ルモ結局實施一週間前位ニ本協定ノ内容ニ觸ルルコトナ

ク事務的二日支無線聯絡ヲ六月一日ヨリ開始ス云々ト發

表スルニ同意セシメタリ何レ先方ヨリ發表ノ内容ニ付相談シ來ル約束ナルカ我方限リニ於テ早期ニ發表スル時ハ

政治的關係モアリ思ハサル障碍ヲ招致スルコトトモナレハ此ノ點ハ充分御含ミ置キ相成度シ爲念

支ヘ轉電セリ

(欄外記入)

發表ハ支那側ヲ寧ロ先ニスル位ニシ可然

48 昭和9年5月22日 在南京須磨總領事より

広田外務大臣宛(電報)

日中無線連絡協定成立に関する發表案について

別電 五月二十二日発在南京須磨總領事より広田外務大臣宛第五三三号

右發表案

南京 5月22日前發

本省 5月22日前着

就テハ本件ニ關シ何等御意見モアラハ貴方御發表振リ共ニ折返シ御電示ヲ請フ

本電別電ト共ニ支ニ轉電セリ

(別電)

南京 5月22日前發

本省 5月22日前着

第五二三號

中日間來往電報事務毎年ノ發受信語數四百六十餘萬語ニ上リ中國國際電報總數ノ半ヲ占ム然ルニ從來海底線ノミニ依リ居リ通信上不足ノ嫌アリ爲ニ今般中日双方ニ於テ六月一日ヨリ中日間無線電信ノ開始ヲ決定シ上海國際電台ト東京電台トハ高速度ノ自働發受信機ヲ用ヒ直接通報スルコトトナリ通報ノ範圍ハ暫時中日間ニ限ラレ其ノ料金ハ現行料金ト全然同一ナリ即チ普通電ハ上海日本間每一語一法五「サンチーム」青島、日本間每一語一法五「サンチーム」ナリ每一語一法二十五「サンチーム」ナリ

49 昭和9年5月22日 在南京須磨總領事より

広田外務大臣宛(電報)

水先章程改訂問題への我が方抗議に対し中國側より妥協案提示について

第五二二號(至急)

往電第四七九號ニ關シ

額司長十九日歸寧セルニ付本件發表方相談ヲ進メタル結果先方ハ二十五日當地朝刊新聞ニ別電第五二三號ノ趣旨ヲ發表シ度キニ付日本側モ大體此ノ趣旨ヲ東京ニ於テ同時ニ發表セラレ度シト額ヨリ申出テタル所先方ノ立場上此ノ上ノ交渉無理ナルヘキニ付同意ヲ與ヘ置キタリ

尙本二十一日朱家驛ハ本官ニ對シ本件發表ノ上ハ左ナキタニ書キタカル新聞ハ種々ノ臆測ヲ報道セントスヘキモ自分ニ於テ本官ト聯絡ノ上目立タサル方法ニテ漸ク漕付ケタルコトニモアリ日本側新聞ニ餘り想像ヲ書カシメラレサル様手配アリ度シト申出タルニ付本官ヨリ豫テ貴方係官ニ申入レ置キタル通り我方ハ掲載禁止ヲ以テ彈壓シ居リタル程ニテ却テ貴方ヨリ二、三消息出テ困リタル程ナリト應酬シ置キタル處我方ハ知ラヌ振リニテ貴電第六九號ノ(三)位ノ措置ヲ執ルコトハ差支無シト存ス

就テハ本件ニ關シ何等御意見モアラハ貴方御發表振リ共ニ折返シ御電示ヲ請フ

本電別電ト共ニ支ニ轉電セリ

シ

往電第五〇五號ニ關シ

第五三二號

本二十二日朱鶴翔ハ本官ニ對シ大要左ノ通り内話セリ(朱ノ立場モアリ内容絶対極秘ニ願度シ)

貴方御申出ノ次第モアリ昨二十一日早速外交財政海軍交通各部ノ係員會合シ自分モ出席ノ上種々協議シタル結果日本等ニ依リ强硬手段ヲ執ラレテハ困難ナル立場ニ陥ル可キモ一方面子ヲ害スルコトモ出來ストテ妥協的ニ

(一)本件ハ從來通り總稅務司署ノ所管事項タル可シ

(二)今後水先案内人ハ主義上支那人タラシムル可キモ現存ノ外國人案内人ハ舊章程ニ依リ其ノ儘權利ヲ保有ス可ク又試験ヲ受ケサル候補者モ舊章程ニ準據シテ採用ス

(三)水先案(内)人ニ關スル收入ハ財政部ニ歸ス

(四)「ライセンス」ハ財政部ヨリ發行ス

トノ諸原則ヲ定メ本日ノ行政院會議ニ掛ケタルヲ以テ其ノ決定ニ基キ財政部ヨリ總稅務司署ニ對シ手續方訓令アル可

同時ニ關係委員會ハ二週間以内ニ前記原則ニ基ク現章程ノ改訂ヲ行ヒ行政院會議通過ノ上之ヲ發表スルコトトナル可シ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ  
支、北平へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

昭和9年5月24日 広田外務大臣より  
在中国堀内(干城)臨時代理公使宛(電報)

水先章程改訂問題に關し中國側妥協案は承認  
できない旨申入れるとともに章程の一方的改

廢を嚴重抗議方訓令

本省 5月24日後5時30分発

第一六七號

南京發本大臣宛電報第五三三號ニ關シ

朱鶴翔ノ内話ハ之ニ依リテ我方ノ出方ヲ見極メントスルモノナルヘク又一旦本件章程改訂ノ公表ヲ見ルトキハ國民政府ハ面子ノ問題モアリ最早列國ノ抗議ニ追隨スルコト困難トナルヘキヲ以テ我方トシテハ早キニ及シテ先方ニ對シ充分ナル壓力ヲ加フルコト肝要ナルヘキ處本問題ニ對スル我

方ノ態度ハ往電第一四四號ノ通り要スルニ形式ノ問題トシテハ現行章程ノ改廢ニ當リテハ飽ク迄支那側ヲシテ豫メ關係國ト協議セシムル建前ヲ堅持スルト共ニ實質ノ問題トシテハ將來ニ亘リ邦人水先人ノ根絶又ハ減少ヲ防止スルヲ以テ主眼トスル次第ナルニ付テハ貴官ニ於テハ朱ノ立場モ御考慮ノ上可然キ方法ニ依リ逸早ク國民政府ニ對シ先方ノ一方的改廢ニ反對ナル我方ノ建前ヲ反復シテ嚴重抗議セラルト共ニ冒頭南京來電中(二)ノ原則ハ前記我方ノ實質的主張ニ背反スルモノナルニ依リ如何ナル場合ニ於テモ我方ノ絕對ニ容認スル能ハサルモノナルコト並ニ同電(三)及(四)ノ原則ト雖實行規定ノ如何ニ依リテハ將來間接ニ邦人水先人ヲ驅逐スルノ結果トモナルヘキニ付右原則カ斯ノ如キ結果ヲ來ス内容ノモノナルニ於テハ是亦絕對ニ承認シ難キ旨嚴重ニ御申入レアリ我方ノ主張貫徹方極力御努力相成度シ

上海へ轉報アリタシ  
二御申入レアリ我方ノ主張貫徹方極力御努力相成度シ

南京北平へ轉電セリ

談ヲ爲シ定メタル迄ニテ條約ノ如キ性質ノモノニアラス又後者トシテハ支那ハ自國ノ水先人ヲモ保護スル必要アルモ同時ニ外國人水先人ノ利益ヲモ尊重スル必要ヲ認め外國側ノ要求無キ以前ヨリ自動的ニ先般公布ノ新章程ノ修正方ヲ決定シ居リ目下軍部、交通部等トモ協議進行中ナルカ右修正ノ分ハ殆ト舊章程ト變り無ク外國人ノ利益ニ何等影響ヲ與ヘサルモノナリト答ヘ尙此ノ問題ハ英米等モ關係アリ公正ナル方法ニテ修正ヲ加ヘツツアリトテ我方ノ抗議ヲ拒否スルノ態度ヲ示セルニ付

三、本使ハ貴電(一)ノ點ハ如何ナル程度ノ修正ナルヤヲ知ラサレハ暫ク之ヲ論セサルモ我方ノ主張スル(一)ノ點ニ付テハ假令名目カ條約ニアラストモ國際的取極ヲ一方的ニ廢棄セントスルハ違法ナルコト、強ヒテ之ヲ實施セントスルニ於テハ意外ノ紛糾ヲ來ス惧アルヘキコト等ノ趣旨ヲ述ヘ之カ改正ニ合法的順序手續ヲ經ル必要アル旨警告シ抗議シタル處

四、汪ハ此ノ問題ハ(一)法理的及(二)事實的ノ二點ヨリ觀察スル必要アリ前者ニ付テハ外交部ニ於テ充分研究ヲ遂ケタル

カ一八六八年ノ章程ハ單ニ支那側ヨリ關係國ニ一應ノ相  
二、日中諸案件交渉

南 京 6月8日後發  
本 省 6月8日後着

第六二五號

有吉公使ヨリ左ノ通  
七日汪兆銘ト會談ノ際本使ヨリ水先問題ニ言及シ  
一、現存ノ規定ハ支那ト關係國トノ國際的取極ナルコト、國  
民政府カ各國ニ相談無ク一方的ニ定メタル新章程ヲ強制  
セントスルハ違法ナルコト、強ヒテ之ヲ實施セントスル  
ニ於テハ意外ノ紛糾ヲ來ス惧アルヘキコト等ノ趣旨ヲ述  
ヘ之カ改正ニハ合法的順序手續ヲ經ル必要アル旨警告シ  
抗議シタル處

三、汪ハ此ノ問題ハ(一)法理的及(二)事實的ノ二點ヨリ觀察スル必要アリ前者ニ付テハ外交部ニ於テ充分研究ヲ遂ケタルカ一八六八年ノ章程ハ單ニ支那側ヨリ關係國ニ一應ノ相  
切實ノ考慮ヲ求ムル旨促シ置ケリ

支へ轉報シ、北平へ轉電セリ

52

昭和9年6月11日

広田外務大臣より  
在南京須磨總領事宛(電報)

長崎在留中國人葉木花殺害事件の詳細について

本省 6月11日後8時0分発

第九八號

貴電第六三〇號末段ニ關シ

杭州電ハ長崎ニ於ケル左記事件ヲ指スモノト認メラル真相

爲念左ノ通

五月二十四日長崎在留支那人葉木花。(十九才、全人ハ濟々費出身ニシテ日本語ノミシカ出來ス當時支那人經營時○中○小○學校ニテ支那語ヲ勉學中ノモノナリシ由ハ道路上ニテ長崎貿易商業學校生徒渡邊信義(大正八年生)外一、二名ヲ口論(單ナル學生同志ノ爭ト認メラル)ノ末毆打セル處渡邊ハ所持ノ匕首ヲ以テ葉ヲ刺殺シ即死セシメタリ犯人渡邊ハ即時捕逮<sup>(イニシテ)</sup>起訴豫審ニ附サレ目下取調中

尙被害者葉ハ前記ノ如ク日本語ヲ極メテヨクシ外見上日本人ト何等異ル所ナク從テ犯人モ犯行後始メテ被害者ノ支那

人ナリシヲ知リシ由ナリ

本件ニ付在長崎支那領事ヨリ縣知事ニ對シ犯人處罰方及在留民保護方公文ヲ以テ要求アリ外交部へモ報告セル模様ナルモ一方領事ハ在留支那人ノ妄動抑壓ニ努メタル結果別ニ動搖ナク内地ニ於テハ單ナル犯罪事件トシテ取扱ハレ居レリ(尤モ當時上海方面支那新聞ニ相當誇大ニ掲載セラレタルコト御承知ノ通)

支、北平へ轉電セリ  
支ヨリ杭州ニ轉電アリ度

53

昭和9年6月13日

在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

葉木花殺害事件に関する中國外交部係官の非

公式談話について

南京 6月13日後発  
本省 6月13日後着

第六五八號

貴電第九八號ニ關シ

十二日外交部係官ノ非公式談話要旨左ノ通

葉木花殺害事件ニ關シ外交部ハ六月一日蔣公使ニ對シ犯人

ノ嚴罰方日本政府ニ申入レ且右裁判狀況ニ注意スヘキ旨訓令スルト共ニ柳領事ヲシテ長崎縣知事ニ對シ華僑保護方要求セシメタル處同知事ヨリ本件ニ對シ遺憾ノ意ヲ表シ今後注意スヘキ旨正式回答越シタル趣ナルカ蔣公使ヨリ未タ何等報告無キヲ以テ本件ハ尙終結シタルモノト認ムル能ハス支、北平へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

第六九四號(至急)

往電第六二五號ニ關シ(水先章程改訂一件)

十九日沈關務署長ノ本官トノ會談左ノ通

一、貴官ヨリ外交部ニ強ク前以テ本新章程ニ付日本側ニ相談方申入レラレタル趣ナルモ面子モアリ徐謨ヨリ貴官ニハ何トモ言ヒ兼ヌル模様ナルカ實ハ既ニ關係各當局ノ委員會ニ於テ協議シ且行政委員會ノ議ヲ經タル成案ヲ得之ヲ十六日自分ヨリ總稅務司ニ送付シ總稅務司ヨリ各國側ニ提示ス可キ旨訓令シ置キタルカ特ニ貴官ノ言ハルルカ如ク日本側ニ於テ七月一日ヨリ其ノ官憲ニ依リ「ライセンス」ヲ發行スル様ノコトアリテハ日支關係ニ思ハシカラサル影響ヲ投スル譯ナレハ右章程ヲ御一覽ノ上何等御意見モアラハ上海貴國官憲ヨリ總稅務司ニ申出テラル様切望スト述ヘ修正管理引水暫行制定草案(十二條及附則ヨリ成ル、要點別電第六九五號ノ通)ヲ本官ニ手交セリニアラス假リニ今貴官ノ申出ニテ内々我方ニ相談アリシモノト見ラル可シトスルモ(總稅務司ヨリ早速上海領事團ニ提議シ關係各國カ之ヲ以テ事前ノ相談ト解スルヤ否

中國側より手交の改訂水先章程草案に対し依然として外国人排除の条項が存在している点を抗議について

54 昭和9年6月19日

在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

別電 六月十九日發在南京須磨總領事より広田外務大臣宛第六九五号

右草案要領

南京 6月19日後発  
本省 6月19日後着

ヤハ日本側ノ關知スル所ニアラス)新草案第五條水先案  
内者ノ國籍ナル條下ニ於テ「案内者ハ中華民國人タル可  
シ」

但シ本章條施行前「ライセンス」ヲ受ケタル外國人案内  
者及見習ハ退職ニ至ル迄其ノ職務ヲ執行シ得ルモ必ス中  
國ノ法律ヲ遵守ス可シ」ト規定シ居ル點ニ於テ(右ハ外國  
シ)

段ヲ極力避ケラレ本問題ニ付日支間ニ暗影ヲ止メサル様  
致度シト繰返シ述ヘ居タリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平へ轉電セリ

(別電) 南京 6月19日後発 本省 6月20日後着

第六九五號

往電第六九四號ニ關シ

水先案内人管理章程草案要領左ノ通

一、總稅務司署ヲ水先案内事務執行總機關トシ關務署ヲシテ  
之ヲ監督セシム戰爭ノ場合ハ最高軍事機關ニ於テ別二管  
理委員會ヲ組織ス(第二條)

二、案内船費用案内人俸給其ノ他ノ費用ハ各商行ニ於ケル事  
務執行機關カ徵收セル各種收入中ヨリ支出ス(第四條五  
項)

三、案内人ハ支那國人ニ限ル但シ外國人ニシテ本章程施行前  
海關發給ノ證書ヲ有シ既ニ案内人若クハ練習員タル者ハ  
〔港ノ〕  
ルモノニシテ衝突其ノ他危險事情ノ發生ニハ其ノ責ニ任  
セス(第十一條)

四、案内人ノ試験ハ考試院之ヲ施行ス(第六條)

五、考試院ノ執照ヲ有スル者ニハ三箇月乃至一箇年ノ期限ヲ  
附シ指定區域内ニ於テ練習セシメ財政部ヨリ執業證書ヲ  
授與シテ正式ニ案内業務ニ從事セシム(第七條一項)

六、案内人ハ毎年七月證書ノ書替ヲ申請スヘシ(同條三項)  
セシム  
七、案内業務ノ執行ハ滿五十五才迄トス(同條四項)  
八、案内人ノ俸給ハ政府ヨリ支出ス

案内人ハ他ノ業務ヲ經營スル事ヲ得ス(第八條一項)  
九、船會社カ指定派遣案内人ノ傭用ヲ拒ム場合ハ「ハーバー  
マスター」ヲ經テ其ノ事由ヲ事務執行機關ニ呈請スヘシ  
(同條十一項)

一〇、案内船ハ總テ支那政府ノ所屬トス(第九條一項)  
一一、本章程ハ支那政府所屬ノ船藉<sup>(藉ノ)</sup>及傭船並ニ外國軍艦ニ適  
用セス

一二、案内人ノ職務ハ船長ヲ指導シ一定ノ航路ヲ航行セシム  
外國軍艦力案内人ヲ傭用セントスル時ハ總稅務司署ニ申  
込ムヘシ(第十條)

55 昭和9年6月21日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)  
改訂水先章程草案は外國人排除などの点で承認で  
きず実施強行の場合は我が方水先業独立のほかな  
き旨中國側へ通告方須磨總領事に訓令について  
本省 6月21日後着

大臣宛電第六九四號ニ關シ(水先章程改訂一件)

貴官ハ汪兆銘又ハ外交次長ニ會見シ先般本件ニ關シ本使ヨリ汪院長ニ充分申入レ置キタル趣旨ヲ繰返サレタル上暫行章程草案ハ沈關務署長ヨリ内密交付ヲ受ケタル處右章程ハ近ク總稅務司ヨリ領事團ニ交付セラル趣ナレハ形式上ハ

決定前我方ニ相談セラレタルコトト解シ得ルトスルモ其ノ内容ニ付テハ我方ノ最モ重要視スル點ニ付何等ノ考慮ヲ拂ヒ居ラス殊ニ將來外國人水先案内人ヲ絕對ニ排除セントスルノ建前ヲ依然堅持シ居リ其ノ他ノ諸點ニ於テモ我方トテ到底承認シ難キモノアレハ今後引續キ列國側ト協議ノ上

修正セラルル方針ナラハ差支無キモ然ラスシテ之ヲ其ノ儘実施セラレントスルニ於テハ誠意アル遣方ト考フルコトヲ

得ス草案細目ニ關スル我方ノ意見ハ追テ申入ルヘキモ若シ此ノ儘ニテ實施ノ運トナルカ如キコトトナランカ我方トシテハ已ムヲ得ス條約上ノ權利ニ基キ一方的ニ「ライセンス」ノ書換發給ヲ爲スノ外無キコトトナルヘク之ニ對シ支那側ニ於テ船舶ノ出港禁止差止船會社ニ對スル罰金等ニ依リ新章程ヲ強行セントスルカ如キ場合ハ我方トシテモ飽迄對抗手段ヲ採ル決心ナレハ其ノ結果事態ヲ紛糾セシムルコトトナルヘキ旨ヲ説明セラレ支那側各機關ニ於テ右様ノ事態ヲ

發生セシメサル様善處方充分注意ヲ喚起セラレ度結果御回電アリタシ

大臣、北平へ轉電シ、上海へ轉報セリ

56 昭和9年6月25日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

葉木花殺害事件に關し日本側対応を非難する

中国紙社説について

南京 6月25日後着 本省 6月25日後着

第七二九號

往電第六五八號ニ關シ(葉木花殺害事件)

在寧華僑各團體ハ後援會ヲ組織シテ當局ニ對シ本件交渉ヲ督促シ居ル趣ノ處二十五日朝報ハ「葉木花事件ノ責任」ト題スル社説ヲ掲ケ日本當局ハ本件ニ付遺憾ノ意ヲ表シタル外加害者カ年少無智ノ學生ナリトテ責任ヲ回避シ居レルカ本件發生ノ原因ハ滿洲事件以來日本ニ於ケル支那人輕侮ノ風潮及教育ノ影響ニアルヲ以テ日本政府ハ率直ニ賠償、犯人ノ處罰ヲ認メ國民ノ對支感情ヲ改善セシムルヲ要シ然ラ

スシテ日本ノミカ支那ノ排日的宣傳及教育ノ取締ヲ要求スルモ兩國ノ和平融解ヲ期シ難キ旨論シ居レリ

尙最近山形縣米澤市ニ於テ支那料理店ヲ經營シ居タル胡志超、陳細錦等十六人ハ黨部工作ニ關係アリトテ不法ニ營業禁止ヲ命セラレ已ム無ク歸國セリトテ葉事件ニ併セテ嚴重交渉方黨部方面ニ訴ヘ居レリ御参考迄

支、北平へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

57 昭和9年6月25日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

我が方の強硬姿勢により改訂水先章程草案の

実施は當面見送りとなる見込みについて

上海 6月25日後発  
本省 6月25日後着

第五十五號

貴電第一九四號ニ關シ(水先權回收問題)

當方面ニ於テハ南京宛拙電第五〇三號我方ノ強硬態度ハ支那側及外國側ニ相當徹底シ居リ(往電第五一〇號唐有壬ト

南京、北平へ轉電シ、上海へ轉報セリ  
斯可キ具體案ニ付テハ支那側今後ノ態度等ヲモ見タル上當地關係各方面ノ意嚮ヲモ參酌シ追テ電報ス

58 昭和9年8月6日 広田外務大臣より  
在中国有吉公使宛

(支那水先修正章程改訂ニ關シテハ出來得ル限り現状維持力相成度)

## 改訂水先章程草案に対する我が方折衝方針に

つき訓令

通一機密第九六號

昭和九年八月六日

在支 有吉公使殿

修正水先章程ニ關スル件

本年六月<sup>(廿九)</sup>一日附上海石射總領事來信機第七三一號ヲ以テ送付シ越セル本件支那側内示ノ修正章程ハ主管機關ヲ財政部總稅務司系統ニ變更セシ以外水先人ヲ原則トシテ支那人ニ限定セルコト主管機關ニ外國側ノ關與ヲ認メサルコト等骨子ニ於テ舊支那章程ト何等變更無ク本件章程ヲ以テ討議ノ基礎トスルコトスラ困難ナリト思考セラルモ非公式乍ラ支那側ヨリ案ノ提示ヲ見タル以上一應對案ヲ具シ協定成立ニ關スル我方誠意ヲ示スト共ニ何等力協定ニ達スル様努力スルコト機宜ニ適スト存セラルニ付上海、天津、青島各總領事ノ意見ヲモ參酌ノ上關係各省ト協議ノ結果左記方針

- (1) 決定セルニ付キ右ニテ支那側ト折衝我方要求實撤<sup>(微カ)</sup>方御盡力相成度
- 二、從而少クモ左記諸點ハ是非改訂セシムルコト
- (イ) 水先人ノ國籍ヲ制限セサルコト
- (ロ) 水先人ヲ海關ノ使用人タラシメサルコト
- (ハ) 水先業務監督機關ハ地方機關ノミトシ海關ヲシテ之ニノ權限執行(地方規則ノ制定、監督權ニ伴フ處罰ノ實行等)ニハ外國側(外國領事並要スレハ外國租界當局及外國商業會議所)ノ關與ヲ認メシムルコト萬已ムヲ得ス中央機關ノ設置ヲ認ムル場合ニ外國側ノ關與ヲ認メシムルコト
- (二) 任命補充ハ一八六八年章程通リトス但シ補充ニ付キ多少支那人ニ特點<sup>(典カ)</sup>ヲ認ムルモ可ナリ
- 右中央機關ノ設置ヲ排セサルハ支那側提案ノ如ク水先人ヲ完全ナル統制下ニ置ク場合ニ於テノミソノ必要モアルヘキモ大體現狀維持ナル以上從來通り地方機關ノミニテムルコト

充分ニテ中央機關ノ設置ハ有害無益ト存セラルニ出ツル次第ナルモ不得止中央機關ヲ認ムル場合ニハ外國側ノ關與ナル條件ヲ付シ支那側ヲ牽制スルコト致度シ

又強制水先ニ關シテハ外國領事カ關與スル地方規則ヲ以テ決定スルニ於テハ原則トシテ必要ニ依リ認ムルコトトルモ差支ヘ無カルベク、楊子江日本人水先協會ハ成ル可ク現狀通リト致シ度キモ場合ニ依リ同協會ノ利益ヲ害セサルカ如キ方法ヲ講シ得ル限り海關側ノ監督ニ服スルモ差支ヘ無カルヘシ

尙各條項ニ關スル我方意見ノ詳細ニ關シテハ別紙<sup>(附註)</sup>ノ通りナリ

本信寫送付先、北平、南京、上海、天津、青島、漢口、廣東、福州、廈門

(在上海石射總領事より)  
廣田外務大臣宛(電報)

改訂水先章程草案への我が方改正案を總稅務

司代理へ手文の際同代理より英米側の妥協振

り内話について

59 昭和9年9月10日

- (A) 本十日本官I.G代理「ローフオード」ヲ往訪シ日本側ニテハ研究ノ結果支那側提案ノ規則ハ餘リニ時期尙早ナリトノ結論ニ達シ該規則全體ニ反對ナリ從テ右規則ニ付逐條的ニ茲ニ意見ヲ述フルモ詮無キ次第ナルカ日本側カラクセプタブル」ナリト思考スル改正方針ハ此ノ通ナリトテ大體在支公使宛通一機密第九六號貴信御訓令ノ趣旨(他(港)關係ノ事項ハ之ヲ除ク)英譯セルモノヲ手交シ之ニ付支那側ニ於テ更ニ研究ノ上「ゴムプロマイデイング」ナル案ヲ更ニ提案セラルコト致度ク聞ケハ英米ハ支那側案ヲ妥協シツツアリトノコトナルカ若シ支那側カ押切ツテ新規則ヲ實施ストセハ日本ハ已ムヲ得ス單獨ニテ「パイロット、アツソシエーシヨン」ヲ組織經營スルコトトナルヘシト告ケタリ
- (B) 「ロ」ハ日本側ノ反對セラルル要點ハ何レナリヤト問ヒ

(1) 支那政府カ「パイロット、サービス」ヲ回収管理スルコト及

(2) 水先人ハ支那人ニ限ルトシ外國人ヲ排除セル點ナリト述ヘタルニ「口」ハ(1)ノ點ハ形ハ支那側カ回收及管理スル形トナリ居ルモ之カ最高管理機關ハIGニシテ實質ハ支那政府ヨリ獨立ノモノナリ(1)ノ點ハ支那側モ實行不可能ノコトヲ知リ居リ若シ未熟ナル支那人水先人ヲ使用セル結果上海港内ニ於テ大商船ヲ沈メタリ「ストランド」セシメタリトセハ之カ爲他ノ船舶ハ數箇月間上海ヘノ出

入ヲ阻害セラレ關稅收入其ノ他ニ付亘額ノ損失ヲ招クコトトナルヲ以テ支那政府モ規則第五條ヲ文字通り實施スル考ナシ現ニ第五條ニハ現在ノ外國人「パイロット」ヲ英米側ノ希望ニ基キ第五條ニ必要ナル場合ニハ外國人「パイロット」ヲ新規傭入レ得ル規定ヲ追加スルコトトセリ就テハ日本側モ何トカ妥協セラル様致度シト云ヘリ之ニ對シ本官ハ「パイロット、サービス」カ一旦支那政府ノ手ニ入レハ夫レハ支那政府ノ一機關トナルモノナレハ支那政府ハ將來必ス之ニ對シ干涉ヲ試ミ來ルヘク此

(3) <sup>(4)</sup> 英米側ト支那側トノ妥協談ハ相當進捗シ居ルモノノ如ク「口」ノ内示ニ依レハ英米側ノ希望ニ基キ規則案ニ別電第四三二號<sup>(省略)</sup>ノ如キ追加乃至修正ヲ爲スコトトナレリト云フ本件ニ付テハ今夕公使南京ヘ御出張ノ機會ニ我方反對ノ次第ヲ中央政府ヘ申入ヲ請フコトセラカ既ニ英米カ妥協シツツアル以上支那側ハ押切テ本規則ヲ實施スルヤモ知レス其ノ場合我方トシテハ日本側丈ヶ水先協會ヲ作リ獨立ニ遭ル外致方無カルヘク我水先人ノ談ニ依レハ「パイロット、ボート」ヲ二、三隻補助ヲ受ケ得レハ日本丈ヶニテノ水先業ハ營業トシテ成立ツ趣ナリ

本電別電ト共ニ北平、天津、南京、青島、漢口、廣東、福州、廈門ヘ轉電シ、支へ轉報セリ

60 昭和9年9月13日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

有吉公使より汪兆銘に対し改訂水先章程草案  
に我が方は絶対反対であり実施延期の上円満  
協議による解決を図るべき旨申入れについて

南京 9月13日前發 本省 9月13日前着

第九一七號

有吉公使ヨリ

本使十一日汪兆銘ト會見ノ際水先章程問題ニ言及シ

一、本使ハ本件條約上ノ根據及我方ノ態度等ハ既ニ公文ニテ申入レアル處支那側ノ發表ニ依レハ新章程ノ實施延期ハ

九月末日迄トナリ居ル處若シ支那側カ右豫定通り之カ實施ヲ強行スルニ於テハ我方ハ已ム無ク獨立ノ水先人協會

ヲ設ケ飽迄現狀維持ノ手段ニ出ツル決心ナリトテ我方態度ノ强硬ナル次第ヲ告ケタルニ汪ハ財政、交通、軍政、

參謀ノ四部ニ關係アル處支那カ自主的ニ章程ヲ變更シ得ルトノ條約上ノ解釋ハ略一致シ居ルモ實際問題ニ關シ各部ノ意見尙一致セサル點アリテ未タ貴公文ニ對シ回答スル運ニ至ラサルニ付本件ハ日本一國ノミニ對スル問題ニアラサルニ付他ノ關係國ニ於テ支那側ノ主張ニ同意スルニ於テハ日本モ亦協調セラレンコトヲ希望ストテ目下外國人側ノ既得權保護ノ方法ヲ當地稅務司ヲシテ研究セシメ居ル旨答ヘタルニ付

三、本使ハ條約解釋上ノ見解ハ各國共大體我方ト一致シ居リ今更議論ノ必要無キ處國ニ依リテハ或ハ事實問題トシテ支那側ノ辦法ニ協調スルモノアルヤモ知レサル處右ハ素ヨリ我方ノ主張ト關係ナキモノナリ尤モ我方モ支那側ノ條約上ノ義務ヲ認メ章程ノ改正ニ付協議シ來ルニ於テハ之ニ應スルニ吝ナラス唯現在支那側ノ企圖シ居ルカ如キ内容ニテハ到底相談ニ應シ得ストテ石射總領事トノ「ローフオード」會見及「ノート」手交ノ次第(上海發閣下宛電報第四三一號)ヲ告ケ尙支那人水先人ノ技術不足ノ實情等ヲ説明シ實際問題トシテモ之カ改訂ハ時期尙早ナル旨ヲ說示シタルニ汪ハ支那人水先人ノ技倅未熟等ノ

點ハ能ク承知シ居ルニ付研究中ニテ支那トシテハ差當リ

條約上ノ解釋ハ其ノ主張ヲ留保シ事實問題トシテ關係國ト協議ヲ進メ度希望ナリト述ヘタルカ本使ハ然ラハ右協

議纏マラサルトキハ期日通り新章程ヲ實施スル考カト試

問シタルニ汪ハ期日迄尙約二十日アルモ此ノ間ニ相談出

來サレハ更ニ延期スル外ナカルヘシト折レ來リタルニ付

本使ハ右延期ノ上各國側ト篤ト協議シ圓滿ナル結果ヲ求

ムルコト賢明ナルヘシト應酬シ置ケリ

尙汪ノ希望ニ依リ前顯「ロ」ニ渡シタル石射ノ「ノート」

寫ヲ手交シ置ケリ

支、北平、天津、青島、漢口、福州、廣東、廈門へ轉電セ

リ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

~~~~~

61 昭和9年9月14日

在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

無線連絡協定成立に鑑み海底電線協定の成立

も図りたいとの交通部側申出について

付記十一月、東亞局第一課作成

(付記)

佐青線通信協定案カ未調印ノ儘今日ニ及ヘル事情並同  
協定案ニ對スル今後我方ノ方針ニ付テ

昭和九年十一月 東亞局第一課

第九二六號

十四日尹國墉他用ヲ以テ來訪ノ際朱家驛ノ傳言トシテ無線  
聯絡協定モ出來上リ無線電話聯絡モ最近行ハントスル此

ノ際海底電線ニ關スル協定モ是非共片附ケタシト申出テタ  
ルラ以テ本官ヨリ右ハ朱部長ノ希望トシテ一應承リ置クヘ

キモ無線聯絡ニ依リ海底電線聯絡ハ其ノ重要性ヲ減シ來レ  
ルニモ顧ミ先ツ無線電話聯絡、航空聯絡等ノ諸懸案ヲ解決

スル方急務ニアラスヤト簡單ニ應酬シ置キタリ

支へ轉電セリ

「佐青線通信協定案カ未調印ノ儘今日ニ及ヘル事情並同協定案ニ對スル今後我方ノ方針ニ付テ」

南京 9月14日後発  
本省 9月14日後着

(欄外記入)  
一、本件新協定案(英文)ハ昭和五年十二月三十一日日支通信會議兩國委員ノ「イニシヤル」ヲアシタル上我方ニ於テハ兩國委員ノ作製セル日支兩國文ト共ニ御裁可ヲ仰クコトトナリ昭和六年二月十八日樞密院ニ御諮詢アリ同十九日上奏御裁可ヲ得タルヲ以テ我方トシテハ何時ニテモ之ニ調印シ得ルコトトナレル處支那側ニ於テ種々ノ辭柄ヲ設ケ荏苒數ヶ月ヲ經此ノ間我方ノ督促ニ拘ラス調印ニ應セサリシカ間モ無ク滿洲事變ノ勃發ヲ見ルニ及ンテ本件調印問題ハ全然停頓スルニ至レリ尤モ前記新協定案「イニシヤル」ト同時ニ該協定ノ効力發生ニ至ル迄現狀維持方ニ關スル覺書ヲ交換シ居ルヲ以テ我方トシテハ對外關係上ハ新協定ノ發効ヲ見ストモ何等支障ナキ次第ナリ

二、支那側カ調印ヲ肯セサリシ事情ハ概不左ノ如キモノナリ

シヤニ觀測セラル

(1) 支那側ハ通信會議ノ議題ヲ一括解決スルヲ得策ト認メ

佐青線協定ノ調印ヲ上海線、川石山線ノミナラス我方

ノ遷延セントスル芝罘線及滿洲借用線等ノ解決迄引延

サント試ミタルコト

(2) 支那側關係者内部ノ事情ノ結果彼等カ協定成立ニ對ス

(3) 支那政局ノ變轉カ累ラ及ホシタルコト

(4) 國民會議ノ開催、廣東派ト蔣介石トノ軋轢等)

(5) 滿洲事件ノ勃發

三、然ルニ客年四月支那側ハ大北、大東及太平洋三會社トノ間ニ昭和五年ノ協定案ヲ調印シタルヲ以テ更ニ我方トノ海底電線協定ヲモ成立セシメント齧意セルモノノ如ク

(支那側トシテハ滿洲事變勃發ノ結果昭和五六年話合程

度ニテ妥結スレハ有利トナレル次第ナリ)八年八月一日附在支公使宛公文ヲ以テ上海線、川石山線問題協定ノ爲並佐青線協定調印ノ爲代表派遣方ヲ要求セルヲ始メトシ爾來屢次ノ口頭ヲ以テ同様ノ申出ヲ爲シ來レリ

右支那側ノ態度變更ノ結果我方トシテモ此等協定ノ善後策ヲ講スルノ必要ニ迫ラレタル次第ナルモ我方ノ立場ハ支那側ト異リ時局變轉ノ結果最早支那側ノ強制回収ノ虞ナクナリタル爲寧口現狀維持ヲ有利トスル(特ニ遞信省側ニ於テ然ク考ヘ居レリ)事情アリ右ハ公然支那側ニ述

フヘキ論旨ニ非サルモ他方此等協定中滿洲國成立ノ現狀ニ適合セサル條項アリ之カ調整ハ是非共行ハサルヘカラサル處右調整ノ方法如何ニ依リテハ支那側ニ於テ却テ困却スル結果ヲ招來スヘキコト明カナルヲ以テ前記支那側ノ申出ニ對シテハ正面ヨリノ回答ヲ避ケツツ海底線問題ハ滿洲國ノ「ステータス」問題ヲ「インヴォルヴ」スル虞アリ妥結困難ナルヘキヲ以テ之ニ觸レサルコト得策ナルヘシトノ趣旨ヲ忠告的ニ述フルノ態度ヲ以テ應酬シ來レリ而シテ過般ノ無線電信連絡協定交渉ニ際シテモ同協定ヲ切離シテ成立セシムルコトニ成功セル次第ナリ

四、尤モ佐青線協定中前記滿洲國成立ノ現狀ヨリ見テ調整ヲ要スヘキ點ノ研究ハ之ヲ爲シ置クコト必要ト認メ既ニ昭和八年四月外務遞信兩省係官打合會ニ於ケル協議ニ基キ左ノ如キ一應ノ考究成リ居レリ

(イ)御裁可濟ノ協定文ニ其ノ儘調印シ之ト同時ニ協定中

現狀ニ適合セサル部分ヲ調整スル趣旨ノ公文ヲ交換スルカ

(ロ)御裁可濟ノ協定文中現狀ニ適合セサル部分ヲ修正シタル協定案ニ付更メテ御裁可ヲ奏請スルカ

ニ付テハ外務省係官ニ於テ條約局ヲ通シ法制局ノ内意ヲ探リタル結果(ロ)ノ方可然シトノコトナリ  
(二)協定案中調整ヲ要スル點(特ニ第三條ニ「中國ノ各地」ナル字句ヲ以テ滿洲國<sup>(マニ)</sup>ヲ滿鐵附屬地ヲ包含セシメ居ルコト並ニ同條ニ於テ滿洲モ支那ノ一部トシテ之カ料金ヲ規定シ居ルコト等)ニ關スル具体的修正方法トシテハ別紙<sup>(省略)</sup>ノ如キ遞信省電務局作製ノ案アリ

五、前記三ノ如ク我方トシテハ滿洲事變後支那側カ海底電信問題ヲ提起シ來レルヤ専ラ之カ遷延策ヲ講スル一方同シク昭和五六年日支通信會議ノ議題タリシ無線連絡協定ノ

成立ニ努メ茲ニ一年餘ヲ經過セル次第ナルカ我方トシテモ今日トナリテハ最早海底線問題ニ付支那側ニ對シ餘り不公正ト思ハル、態度ヲ執ル譯ニハ行カサルヘク全問題ニ付飽ク迄現狀維持ニテ押通スコトハ大局上必シモ得策ト謂フヘカラスト思惟セラル從ツテ今後ノ方針トシテハ主義上ニ於テハ佐青線協定等海底線問題ノ再討議ヲ回避セサルコトシ可然キ處實際問題トシテハ前記四ノ如ク此等協定案文中滿洲國成立ノ結果調整ヲ必要トスル部分アリ我方ニ於テハ夙ニ係官限リノ一應ノ研究ヲ爲シタルカ支那側ニ於テモ目下研究中ノ模様ナルヲ以テ海底線問題ノ再討議ハ左迄急速ニ實現スルモノニ非サルヘシ唯

滿支通郵問題モ遠カラス實現ヲ見ル模様ニテ若シ支那側カ「滿洲郵政廳」ノ如キモノトノ間ニ通郵ノ辦法ヲ講スルニ至ランカ或ハ日支海底線協定ニ關スル前記調整モ比較的簡單ニ解決スルニ非スヤ乃至ハ少クトモ前記四及別紙昭和八年外務省及遞信省係官限リノ一應ノ調整案ハ茲ニ再検討ノ必要アリト認メラル依ツテ今後我方トシテハ支那側ニ對シ當分ノ間依然トシテ滿洲ノ「ステータス」ニ關スル調整ヲ考慮セルヤトノ態度ヲ以テ應酬スル一方

(欄外記入)

條約局ヨリ主題ノ件ニ付問合アリタルヲ以テ口頭説明シ置タルカ書物アラハ貰ヒタシトノ趣ニ付一応書イテ見タルモノ本稿ナリ

條約局ニテハ部外ニ示サ、ル趣ナルモ爲念課長ニ於テ御覽アリタシ

曾 弥

62 昭和9年9月19日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

我が方よりの改訂水先章程草案の修正協議実施申入れに対し中国側より章程実施を延期するので日本側も讓歩妥協するよう要望について

本 省 南京 9月19日後発

第九五一號

本官發上海宛電報

第六五號

貴電第八五號ニ關シ（水先章程及水先案内協議ニ關スル件）

十九日朱鶴翔（本件主管者ニシテ關係各部會議ニ於テ外交部ヲ代表シ居レリ）ト會見ノ上貴電ノ趣旨ヲ申入レタル處

本件ハ財政部カ技術問題トシテ主管スルコトニ決定シ居リ

各國側見解ハ外交部ヨリ其ノ儘財政部ニ取次キ居ルニ過キ

ス現ニ往電第九一七號有吉公使ヨリノ申出モ其ノ儘沈關務署長（孔祥熙ハ本件ヲ沈ニ一任シ居ル由）ニ傳達セル次第ナ

リト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ重ネテ内部的關係ハ兎ニ角重大利害關係ヲ有スル我方ニ何等相談無ク英米等トノ妥協

ヲ急キ居ル模様ナルカ右ハ何等本件ノ圓滿解決ニ資スル所

以ニ非ス日本側ハ勿論他ニモ强硬ナル態度ヲ持シ居ルモノアルヘキヲ以テ支那側カ其ノ態度ヲ改メサル限り事態ハ重大化スヘシト述ヘタル處

朱ハ實ハ内密ノ話ナルカ支那側ハ日本側トノ折衝ヲ避クル爲更ニ二三ヶ月期間ヲ延長スルニ内定シ居リ其ノ間ニ日本側モ再考アラムコトヲ希望ス支那側トシテハ過去ニ同様ノ

第八四二號

最近支那側綿系統稅增率ノ儀アル旨傳ヘラレタルカ（數日前紡績同業界<sup>(會)</sup>ヨリ延長方財政部ニ陳情セル旨報告アリ（石射總領事發閣下宛十月十九日附公信機密第一二二九號參照）十九日同業界<sup>(會)</sup>ヨリ増率ニ異存無キ旨（イ）綿布稅率ハ從來ノ例ニ依リ綿糸稅率ヲ基準トシテ算定スルコト（ロ）新稅實施前庫品ハ舊率ニ依ルコト（ハ）新稅ハ二年間變セサルコトヲ條件トセリ）十八日附ニテ統稅署長ニ申入レタル趣報告アリ右ニ付船津ニ對シ事前ニ當方ニ相談セサリシ點ヲ詰リタル處同人ハ數日前統稅署側ヨリ内示セル稅率ハ案外低ク（現行率ノ約二割）且（内）示案ハ現行二分類主義ヲ踏襲シ居ル處

支那紡績ハ四分類主義ノ採用ヲ強調シ居ル趣ナリシヲ以テ此ノ際種々交渉スルニ於テハ却テ不利ナル結果ヲ來スヘキ惧アリタル事情ニ鑑ミ支那側内示案ニ前記ノ條件ヲ附シテ直ニ之ヲ受諾シ右ニ即決方誘導スルヲ有利ト認メタルニ付事情了承方陳辯セリ

63 昭和9年10月20日 在中国有吉公使より

廣田外務大臣宛（電報）

独断で綿系統稅增率の容認を中國側に回答し

た在中国日本紡績同業会の関係者に対し條約

上の立場など説示について

右ニ對シテハ我方條約上ノ立場等ヲ説示シテ將來ヲ注意シ置キタルカ今後支那側ニ於テ右同業界側<sup>(會)</sup>ノ受諾案ヲ實施スル限り（其ノ他ノ條件ニ付テハ昭和五年ノ契約カ默認的ニ更新セラルトノ建前ヲ執ル積リナリ）其ノ儘默認スルモ差支無シト存セラル處何等御意見アラハ御回電ヲ請フ

北平、南京、天津、青島、漢口へ轉電シ上海へ轉報セリ

64 昭和9年11月2日 在中国有吉公使より

廣田外務大臣宛（電報）

中國銀問題などに關する我が方意見を宋子文  
照会について

右ニ對シテハ我方條約上ノ立場等ヲ説示シテ將來ヲ注意シ置キタルカ今後支那側ニ於テ右同業界側<sup>(會)</sup>ノ受諾案ヲ實施スル限り（其ノ他ノ條件ニ付テハ昭和五年ノ契約カ默認的ニ更新セラルトノ建前ヲ執ル積リナリ）其ノ儘默認スルモ差支無シト存セラル處何等御意見アラハ御回電ヲ請フ

北平、南京、天津、青島、漢口へ轉電シ上海へ轉報セリ

右ニ對シテハ我方條約上ノ立場等ヲ説示シテ將來ヲ注意シ置キタルカ今後支那側ニ於テ右同業界側<sup>(會)</sup>ノ受諾案ヲ實施スル限り（其ノ他ノ條件ニ付テハ昭和五年ノ契約カ默認的ニ更新セラルトノ建前ヲ執ル積リナリ）其ノ儘默認スルモ差支無シト存セラル處何等御意見アラハ御回電ヲ請フ

北平、南京、天津、青島、漢口へ轉電シ上海へ轉報セリ

二 日中諸案件交渉

二日宋子文ハ須磨ニ對シ米國ノ銀政策カ「ロチャース」教授ノ提案ナルカ如ク宣傳セラレ「ロ」ト自分カ密接ニ聯絡シ居タル關係上自然自分ニモ責任アル如ク言觸ラサレ居ルモ「ロ」ノ調査ハ銀ト輸出入貿易トノ關係ニ限局セラレ米國ノ銀政策ハ上院銀派ノ要求ニ基ク純然タル内政問題ニ過

經驗ヲ有セル日本コソ率先シテ支那ノ受ケ居ル不平等待遇打破方ニ努力セラルヘキ筋合ナリト思考シ居リ殊ニ孔部長ノ如キハ困難ヲ排シテ賠償金支拂等ヲ實行シ居ルニ拘ラズ

日本側カ何等「レシプロケート」セサルヲ遺憾トシ居レリト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ我方ニ重大ナル關係アル事項ニ付何等ノ相談モセス一方的ニ變更ヲ加ヘントシ乍ラ同情アル支持ヲ求メントスルハ身勝手ナルノミナラス賠償金ハ支那カ支拂フヘキモノヲ支拂ヒツツアル迄ニテ本件トハ無關係ナリト突撥不延長期間内ニ我方ニ相談方強調シタル處朱ハ御來示ノ次第ハ充分財政部迄傳ヘ置クヘシト答ヘ居タリ大臣ヘ轉電セリ

公使ヘ轉報アリタシ

経験ヲ有セル日本コソ率先シテ支那ノ受ケ居ル不平等待遇打破方ニ努力セラルヘキ筋合ナリト思考シ居リ殊ニ孔部長ノ如キハ困難ヲ排シテ賠償金支拂等ヲ實行シ居ルニ拘ラズ日本側カ何等「レシプロケート」セサルヲ遺憾トシ居レリト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ我方ニ重大ナル關係アル事項ニ付何等ノ相談モセス一方的ニ變更ヲ加ヘントシ乍ラ同情アル支持ヲ求メントスルハ身勝手ナルノミナラス賠償金ハ支那カ支拂フヘキモノヲ支拂ヒツツアル迄ニテ本件トハ無關係ナリト突撥不延長期間内ニ我方ニ相談方強調シタル處朱ハ御來示ノ次第ハ充分財政部迄傳ヘ置クヘシト答ヘ居タリ大臣ヘ轉電セリ

キス但シ今回ノ支那ノ銀輸出税及平衡税加徵ニ拘ラス銀輸出繼續ヲ見ル場合銀一弗ニ付一志ノ對英相場ヲ限界トシテ支那財界ハ「パニツク」ニ入ル懸念濃厚ナル處支那ハ紙幣

弗ニ依ルコト能ハサル事情アルニ付此所ニ抱綻ヲ生シ遂ニハ在銀豊富ナル米國ニ財政的援助ヲ歎願スル外ナキニ至ル

ヘク

其ノ場合政治的ニモ重大ナル波紋アルヘシト私カニ憂慮シ

居ル向アル處自分モ右ハ尤モト思考シ實ハ英米方面ノ意嚮

ヲ聽取スルニ努メ居レルカ曰本側ノ意見ヲモ承知シ置キタ

シト述ヘタルニ付須磨ヨリ其ノ内日本銀行家ヲ紹介方約束

シタル趣ナリ

尙宋ハ銀問題ノミナラス最近問題トナリ居ル綿絲統稅ノ引上或ハ四級制ノ實施等ニ付テモ頻リニ日本側ノ意嚮ヲ氣ニシ詳細質問シタル趣ニテ從前ト異リ餘程日本ニ對シ興味ヲ覺ヘ居ルト見受ラレ須磨ニ對シ日本商工業資料ノ提供ヲ喜ヒ至急研究シ度ク或ハ日本ニ赴キ實情視察シ度キ意嚮モアリ之カ準備トシテ日本語ノ研究ヲモ思立チ居レリト語レル趣ナリ

南京、北平ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

65 昭和9年11月9日 在南京須磨總領事より  
付記 十二月十五日付、作成局課不明

中国銀問題に關し陳公博と意見交換について

〔支那ノ銀問題〕

機密第七二一號

昭和九年十一月九日

在南京

外務大臣 廣田 弘毅殿

銀問題等ニ關シ陳公博ト會談ノ件

(欄外記入)  
五日本官陳公博ト時局談ヲ試ミタルカ銀問題ニ付尋不見タル處陳ハ本件ニ關シテハ何時カハ荒療治ノ必要アルヘシト思考セラルル次第ニテ支那ハ(1)極端ナル「インフレーション」ヲ行フヘシ(2)Principal goodsヲ本位トスル貨幣制度(例へハ獨ノ「レンテンマルク」制ノ如キ)ヲ樹立スヘシ(3)金本位制トナスベシ等ノ諸説有力ナル處支那各地ニ於テ使用セラルル貨幣必シモ一ナラス又同一省内ニ於テモ例ヘハ銀ト銅トノ關係大洋ト小洋トノ關係等極メテ復雜ナレハ

以上ノ中一ヲ採用シテ銀本位ヲ離脱ストセハ同時ニ右カ支那經濟界ニ及ホス急激ノ變化ヲ中和スヘキ機關ヲ設立セサルヘカラス而シテ本機關ノ有效ナル活動ノタメニハ豊富ナル情報ヲ驅使シ得ル強力ナル中央政府ノ存在ヲ必要トスヘク現在ノ支那ニ於テハ少シク荷カ重キニ失スルモノト謂ハサルヘカラス自分ハ北京政府時代財政總長タリシ梁士詒ノ下ニテ研究セル結果ニモ顧ミ支那幣制ノ根本的建直シハ「デフレーション」ニ依ルノ外ナシトノ意見ヲ有シ居レリト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ支那幣制建直シニハ先ツ現在中央中國交通以下多數銀行ニ附與セラレ居ル發券權ヲ例ヘハ中央銀行ニ集中スルヲ前提トシ尙幾多ノ階程<sup>(抑)</sup>ヲ經ルノ要アルヘキ處支那カ如何ナル方法ニヨリソノ貨幣制度ノ整備改革ヲ行フニセヨ到底自力ヲ以テスルコト先ツ不可能ナルヘク恐ラクハ外國ノ援助協力カ必須要件トナルノ外ナカルヘシ殊ニ生銀ヲ最モ多量ニ保有スル米國ニ依倚スルノ結果ヲ生スヘク然ル上ハ米國ヨリ援助ヲ受ケ之カ代償トシテ同國ニ特別ナル利權ヲ賦與スルコトモアリ得ヘク自然銀問題力國内問題ヨリ國際問題トナリ經濟問題ヨリ政治問題トナル所以ハ茲ニ存スト述ヘタル處陳ハ現在ハスル代償要求ノ時

迄ニ報告申進ス

本信寫送付先 公使 北平

(欄外記入)

須磨總領事ノ應酬振ハ兎モ角トシ我方トシテ銀問題ヲ利用シ  
支那側ライヂメ付ケル方法アリヤ又之ヲ喜バセル方法アリヤ  
ハ研究シ置ク必要アルヘシ須磨氏帰朝ノ際話スコト

(付記)

(昭和九、十二、十五)

支那ノ銀問題

(欄外記入)  
支那トシテハ(1)銀價ノ騰貴(2)之ニ伴フ現銀流出ハ從テ銀  
「ストツク」ノ減少ニ苦シミ居ル次第ナル處日本トシテ右

(1)(2)ノ傾向ヲ助成シテ支那ヲ苦シメ又ハ其ノ傾向ヲ緩和  
シテ支那ヲ援助スル方法アリヤラ考フルニ(之アリトスレ  
ハ支那ヲシテ銀問題ニ付日本ニ賴ラシメ對支政策上大イニ  
利用シ得ヘシ)結局斯カル方法ナシト言フ外ナキカ如シ更  
ニ研究ヲ要スルハ勿論乍ラ大藏省某課長談左ノ通

(1)銀價ノ騰貴。最近ノ銀價ノ騰貴ハ米國ノ銀價引上政  
策ニ依ルモノナル處日本トシテ右米國ノ政策ヲ「カウ

ンター、バランス」スル實力ヲ有セス又米國「コングレス」ヲシテ銀ニ關スル法律ヲ變更セシムル工作モ効果ナカルヘシ

(2)現銀流出阻止。支那ヨリ流出スル銀ノ一部ハ日本ニモ流入シツツアリ最近滿支方面ヨリ流入スル銀塊ニシ

テ大阪造幣廠ニテ精練ノ上倫敦等ニ向ケ輸出セラル  
モノ增加シツツアリ右銀塊ハ如何ニシテ支那ヨリ輸入  
サルルカ(密輸ナリヤ否ヤ)經路明確ナラサルモ支那ハ

銀ノ流出ヲ禁止シ居ラス平衡稅サヘ拂ヘハ合法的ニ輸  
出シ得ルモノニシテ平衡稅ヲ拂ヒタル旨ノ證明書シタ  
ルモノニ限り精練スル等ノ方法考ヘラレサルニ非サル  
モ法制上不可能ナルヘシ

(ハ)銀「ストツク」ノ減少。日本ノ產銀及保有高ハ大勢  
ヨリ見レハ取ルニ足ラサルモノナルヲ以テ之ヲ支那ノ  
銀「ストツク」減少ハ緩和シ得サルヘク且銀ヲ送ルト  
言フモ日支國際決済ニ於テ日本カ受取勘定ナレハ其ノ  
方法ナシ又「クレデイツト」設定ノ如キモ日本トシテ  
之ヲ與フル譯ニ行カス且支那トシテモ金本位國ニ「ク  
レデイツト」ヲ設定スルモ目的ヲ達セス

尙滿洲國ヲ銀ノ流出ヲ警戒スルヲ要スル立場即チ支那ト同  
一ノ立場ニアルヲ以テ支那ニ援助ヲ與フル譯ニ行カス他面

銀流出ヲ盛ナラシムルカ如キ對策(之アリトスレハ)ヲ採レ  
ハ滿洲國ヲモ苦シムルコトトナル私見トシテハ結局ハ寧ロ  
銀ノ流出等ニ依リ支那カ銀本位制ヲ捨テ金爲替本位トナル  
コトカ却テ日支貿易上有利ナルヘク又惹ヒテ滿洲國モ金爲  
替本位トナレハ日滿幣制上有利ナルヘシ云々

(欄外記入)

参考ノ為須磨總領事ニ渡シ置キタリ

25／12／34

水先問題ニ關シ

「我方獨立水先ノ實行案ハ目下當方我水先人及船會社ヲシ  
テ立案ヲ急カセ居ル處獨立水先ハ當初ノ豫想以上ニ經費ヲ  
要シ將來我出入船カ增加スル場合ハ兎モ角昨年並ノ我船舶  
ヨリノ水先收入(約十萬六千弗)ヲ以テシテハ之ヲ賄ヒ兼ヌ  
ルコト分明トナリ從テ水先船ヲ備付ケテ遣ル外年々數萬弗  
ハ我政府ヨリ之ヲ補助スルコト必要ナルニ付右御承知相成  
度右ニ關スル的確ナル數字ハ追テ成案ヲ以テ具申スヘシ  
(二語<sup>(編註)</sup>脱)我方カ獨立水先ヲ强行セントスルハ支那側カ一方  
的ニ現行水先規則ヲ改廢セントスル條約上ノ理由ト支那側  
カ水先權ヲ手ニ收メ行々ハ外國人水先人ノ根ヲ絕ヤサント  
スル結果將來我海軍及商船カ受クヘキ脅威ト不便トヲ防止  
セントスル實際上ノ理由ニ起見スル處

既ニ支那側カ新水先規則ヲ列國側ニ内示シ其ノ意見ヲ求メ  
ツツアル上(支那船ハ<sup>(側)</sup>國民ニ對スル手前外面的ニハ自己ノ  
一方的意思ニ基ク規則ノ如ク見セ掛ケタキナリ)我方ニ於  
テニ同意スルニ際シ一八六八年規則ト同様外支双方ノ合  
意ニ成ル規則タルノ性質ヲ新規則ニ持タスコトハ裏面的ニ  
不可能ニ非サルヘク右カ出來レハ我方條約上ノ理由ハ維持

我が方水先業の独立經營は實際上困難のため条件  
付で水先章程改訂を承認する交渉開始方意見具申

上海 11月19日後発  
本省 11月19日後着

66 昭和9年11月19日 在上海石射總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

セラルヘク又新規則承認ノ條件トシテ

(一) 現存ノ日本人水先人ヲ海關ノ雇傭人トシテ存續スル外將

來日外人ノ水先人ノ總數ヲ一定數ヨリ以下ニ減員セス退職者カ出來タ場合ニハ

例<sup>(3)</sup>ヘハ過去五年間ニ各國船舶ノ支拂ヒタル水先料金ノ割合ト云フ如キ一定ノ標準ニ依リ後任者ノ國籍ヲ決定スルコト(支那側カ自國人ノ水先人ヲ入レタキ時ハ日外人水

先人ノ總員數以外ニ於テ之ヲ爲スハ勝手タルコト)

(二) 日本軍艦又ハ船舶カ日本人水先人ヲ指名シタル場合ハ必

ス之ヲ派遣スルコト

(三) 我方船舶ハ何時ト雖特定ノ水先人ヲ忌避シ得ルコト

等ヲ貫徹セハ新規則ハ事實上骨抜キトナリ我方實際上ノ(脱)理由モ解消スヘシ但シ右條件ヲ新規則ノ上ニ書キ現ハ

スコトハ支那側ノ難シトル所ナルヘキヲ以テ之ヲ日支間別箇ノ取極トスルヲ可トスヘク支那側モ或ハ耳ヲ傾クヘキ

カト思ハル

三、我方獨立制ノ水先ハ支那側ノ態度如何ニ依リテハ飽迄之ニ突進ムヘキハ勿論ナルカ充分ノ補助ヲ與ヘサル限り實際

ノ「サービス」上相當ノ無理カ伴ヒ我方船舶ニ不便ヲ與フ

カト思ハル

四、昨十七日英國總領事「ブレナン」ノ話ニ依レハI、G側ハ大體英國側ノ希望修正ヲ容レ財政部ノ「アブルーバル」ヲ待チツツアル由尙英國側ハ新規則ヲ以テ英國ノ同意ヲ得タルモノナリトノ様式ヲ備ヘシムル考ナル由ナリ英米側カ多少ノ修正ヲ以テ新規則ヲ承認スル以上支那側ハ愈之ヲ新年ヨリ實施スル考トナルヤモ知レス此ノ際我方ニ於テ前記ノ條件ヲ强硬ニ持出ストキハ或ハ新規則實施ノ再延期續イテ我方ノ條件貫徹トモナリ得ヘシ就テハ前記條件ニ付公使館ヨリ支那政府ニ交渉ヲ請フ一方本官ニ於テ至急當地I、G側ト交渉ヲ開始致度何分ノ儀御訓令ヲ請フ

支へ轉報シ北平、天津、青島、南京、漢口、廣東、福州、

廈門へ轉電セリ

編注 「(一語脱)」は後日、「三」と訂正された。

67 昭和9年11月30日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

銀価暴騰による中國現銀の国外流出が深刻となり金融恐慌発生が憂慮される旨の横竹商務

参考官観測について

第八九四號  
横竹ヨリ

支那政府ノ銀輸出税引上及護照制度實施ハ銀ニ對スル不安

人氣ヲ益々深刻ナラシメ銀ノ死藏資本ノ逃避及密輸出等ヲ

増加シタル爲當地在銀ハ十一月二十四日現在邦人銀行一千八百萬外人銀行五千萬元支那人銀行三億一千四百萬合計三

億八千二百萬元ト本年七月一日ニ比シ二億元ノ減退ヲ示セリ尤モ支那銀行ノ銀保有高ハ公債預金(中ニハ不動産ヲモ

入レ居ルモノアルヤニ想像セラル)準備銀中ニ包含シ居ル

關係モアリ實際ハ存外少キモノノ如ク又外人銀行ノ在銀激減ハ本夏以來銀ノ輸出ヲ盛ニ行ヒタルカ爲ナリ

斯ク金融ノ梗塞ハ當地金利高ヲイヤカ上ニモ煽リ「コール」

ルコトハ免レサル所ナルヲ以テ出來得レハ獨立水先ノ實施ハ避クルヲ可トスヘシ就テハ一方ニ於テハ獨立水先ノ準備ヲ急キツツ他方前項ノ條件ヲ以テ支那側ニ交渉ヲ開始スルコトト致度シ

四、中央銀行ハ海外資金缺乏ノ爲手持銀ノ海外積出ヲ計畫シ居ル處右準備銀ノ不足ヲ招來シ支那政府ノ諸政策ヲ早ム

ルコト

要スルニ當地金融界並ニ爲替市場ハ流言蜚語ヲ放ツ者多ク財政ノ前途ニ暗雲低迷シ薄氣味惡キ現狀ニアレハ今後銀ノ死藏或ハ資本ノ逃避ヲ益々增加シ一層在銀ノ減退ヲ來シ延

テハ金融恐慌ヲ招來スルニ至ルノ虞多ク遂ニハ銀ノ輸出禁止及兌換停止ヲ行フノ已ムヲ得サル場合ニ陥ルコト無キニ非スヤト見ラレ事態ヲ憂慮スルモノアリ尤モ此ノ種ノ説ハ多少先走リ居リ杞憂ニ屬スル嫌無キニシモ非サルモノ其ノ成行ハ最モ注意セラレ居ル處テアリ御参考迄ニ申上ケルモノナルニ付外部ニハ絶對ニ發表差控ヘラレ度シ

68 昭和9年12月9日

在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

英國は改訂水先章程を近く承認し調印の意向につき我が方も条件付承認の交渉を至急開始

## 方意見具申

上海 12月9日前發  
本省 12月9日前着

(1) 第九一九號

上海發閣下宛電報第五二五號及第五六三號ニ關シ、「カドガン」ハ五日本使來訪ノ節水先問題ニ關シ支那側トノ交渉相當進捗シ居ル旨ヲ話シタルニ付本使日本トシテハ少クトモ當分ノ間ハ外國人「パイロット」ノ地位ヲ

英國側トシテハ或ハ先日承リタル日支間ノ話合纏ル以前ニ調印スルコトトモナルヘキ處日本側トシテハ右ニ御異存ナキヤ御伺致度シト述ヘタルニ付本使ヨリ差當リ私見トシテハ異存ナシト思ハルモ尙總領事トモ相談ノ上何分ノ御返事スヘク尙貴方ニ於テ調印セラルルトモ我方ト支那側トノ交渉ノ都合モアリ之カ實施ハ餘り急カレサル様希望スト述ヘタルニ對シ「カ」ハ話合纏ルトモ本國政府ノ承認ヲ要シ又支那側ハ萬事ニ「スロー」ナレハ早急

(2) 第九一九號

## 二實施スル運ヒトハナラサルヘシト述ヘ居タリ

三、本件ニ關シ米國側ヲシテ我方ト同一ノ歩調ヲ取ラシメ難キ事情ハ既ニ御承知ノ通ニ有之從テ前記「カ」ノ申出ニ對シテハ石射總領事トモ打合ノ結果近ク總領事ヨリ「ブレナン」ヲ通シ我方ニ於テハ英國側ノ本件調印ニ異存ナキ旨ヲ回答セシムル積リナレハ右ニ御含置ヲ請フ然ルニ冒頭電我方ヨリ支那側ニ對スル申入ハ前記英國側ノ調印前ニ之ヲ爲スコト目的達成上頗ル緊要ト存セラルルニ付右ニ關シ何分ノ儀至急御回示ヲ請フ

支、南京、青島、天津、漢口、廣東、福州、廈門へ轉電シ上海へ轉報セリ

69 昭和9年12月20日 広田外務大臣より  
在中國有吉公使宛(電報)

我が方水先業の独立經營につき關係方面的了承を得たので從來通り改訂水先章程草案には絶対反対の立場を固持し実施延期に尽力方訓令

第三一五號(至急)

本省 12月20日発

## 貴電第九一九號上海來電第五二五號第五六三號ニ關シ

一、上海「ライセンストバイロット」免狀有效期限ノ切迫セル關係モアリ水先問題ニ關スル我方態度ヲ決定スル必要上先日來大体上海總領事館作製ノ案ヲ基礎トシ主トシテ上海ニ於ケル獨立水先實施ニ付キ海軍遞信省及關係船舶會社ト協議シ來レル處各省ニ於テハ右實施ニ異存ナク又會社側ニ於テモ十九日ニ至リ獨立水先實施ヲ納得スルニ至レリ

二、而シテ上海ニ於ケル獨立水先ハ大體上海總領事館案(上海來電第五七九號)ヲ基礎トシテ實行シ得ヘキ見込ニテ引續キ細目ニ付研究中ナリ(吳淞漢口間ニ於テハ殆ント問題ナカルヘク他ノ各港特ニ天津、青島ニ關シテハ必要ニ應シ別ニ考慮スルコト致度シ)

三、依テ本件ニ關スル我方々針トシテハ依然從來通リノ強硬態度ヲ持シ支那側ノ出方ヲ待ツコト致度ク、差當リテハ是非明年一月ヨリノ實施丈ハ延期セシムル必要アルニ付キ本問題ニ付我方ヨリ數ヶ月前對案ヲ提出シアルニモ不拘之ニ對シ何等ノ挨拶モ無ク實施スルカ如キ不誠意ノ態度ヲ取ラシメサル様適當ノ向ニ對シ嚴重注意喚起ノ上

維持スルコト絶對必要ト認メ支那側ト交渉シ居ルモ先方ハ初ヨリ專ラ米國トノ妥協ニ努メ日本ノ要求ニ重キヲ置カサル模様ナルカ支那側ニ於テ日本ノ要求ヲ無視シテ一方的ニ新協定ヲ實施スルカ如キ場合ニハ日本トシテハ獨立水先協會ヲ設ケテモ條約上ノ立場ヲ維持スル覺悟ヲ極メ居ル次第ニテ右ハ日本船舶業及水先人ノ利益ノ爲已ムヲ得サル處置ナリト説明シ置キタルカ八日「カ」公使本使ヲ來訪シ先日御話セル水先問題ニ付テハ支那側トノ交渉ハ水先人ノ員數ニ關スル點ヲ除キ大體纏リ水先協會側ニ於テモ右ニ満足シテ速ニ之カ實施ヲ希望シ居ル次第ナルカ

差當リテノ實施延期御盡力相成度シ

尙我方提出ノ對案ニ對シ支那側ヨリ更ニ話ヲ持出スニ於テハ妥協ノ途ヲモ或ハ考慮シ見ルヘキモ我方ヨリ妥協條件等ヲ具シ話合ヲ初ムルコトハ目下ノ所之ヲ避クルコト致度シ

北平、天津、青島、南京、漢口、廣東、福州、廈門へ轉電セリ  
上海へ轉報アリタシ

70 昭和9年12月28日 在南京田中(彦藏)總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

有吉公使より改訂水先章程草案の修正協議開始  
方要請に対し汪兆銘は迅速なる協議開始および  
協議が纏まるまで章程実施延期方確約について

南京 12月28日後発  
本省 12月28日後着

第一二七〇號  
有吉公使ヨリ  
貴電第三一五號ニ關シ

往電第一二六九號會談ノ後本使ヨリ水先問題ニ付テハ我方ヨリ新章程ノ一方的實施カ條約違反ナルコト及現行章程ノ改正方ヲ申出ラルナラハ之ヲ考量スルニ吝カラサル旨公文及口頭ヲ以テ再三申入レ居リ又新章程ニ對スル我方修正意見ヲモ提出シ居ル次第ナルカ貴國當局ハ英米側トノ間ニモ着々話ヲ進メラレ居ルニ拘ラス我方ニ對シテハ何等相談ヲ持チ掛ケラレス前記我方ノ申入及提案ニ對シテモ今以テ何等ノ御回答無ク我方トシテハ甚々不満ニ感シ居ル次第ナルニ付テハ此ノ際係官ニ御訓達ノ上速ニ我方ト商議ヲ開始シ圓滿解決ヲ計ル様取計ハレ度シト述ヘタルニ對シ汪院長ハ貴國ノ御意嚮ハ打チ捨て居ル譯ニハ非サルモ貴國側ノ提案ハ新章程ト餘り懸ヶ離レ居ル爲係官ニ於テモ手ノ下シ様無ク又英米カ承諾シ得ル條項ヲ貴國ノミカ承諾シ得ストハ甚々肯定シ兼ヌル所ナリト述タルニ付

本使ヨリ日本ニ於テハ貴國ハ先ツ英米ト話ヲ纏メ之ヲ利用シテ我方ヲ抑ヘ付ケント目論見居レルニ非スヤトノ懸念ヲ懷クモノ鮮カラス之ハ我カ國民一般ニ對シ頗ル惡印象ヲ與フル次第ナレハ充分考慮アリタシト述ヘタルニ汪ハ此ノ點ハ充分係官ニ注意シ決シテ右ノ如キ印象ヲ與フルカ如キ措

ニ於テ延期方ヲ決議スル豫定ナレハ決シテ右様ノ措置ニハ日本側ト商議ヲ開始スルコト及(二)日本側ト商議纏マル迄ハ新章程ノ實施ハ延期スヘシトノ考ヘナレハ早速當局ヲシテ右様取計ハシムヘシト答ヘタルニ付本使ヨリ此際突然新章程ヲ實施スルカ如キコト無キ様致サレ度若シ右様ノコトアリテハ問題ハ益々紛糾スルニ至ルヘシト念ヲ押シタル處汪院長ハ自分ノ考ハ右ノ通ニシテ明後日(土曜)ノ行政院會議

上海へ轉報アリタシ